令和７年度

事　業　報　告　書

社会福祉法人　山王平成会

目次

法　人　本　部 …… 1

ごしょの保育園 …… 6

かわしり保育園 …… 13

阿久和保育園 …… 21

西 柴 保 育 園 …… 33

上永谷西保育園 …… 39

阿久和キッズ …… 47

令和８年６月２日

令和７年度
法人本部 事業報告書

1. 評議員

評議員は次のとおり（敬称略）

安部　珠央、石川　素子、柴田　幸春、牧島　綾子、松田　拓郎、松橋　洋子
丸山　美路、米村　徹

2. 理事・監事

理事・監事は次のとおり（敬称略）

・理事長　　長谷川　貴勇
・副理事長　加賀屋　寛子
・理事　　有田　正司、冨樫　冨士子、松田　悦朗、植田　愛美
・監事　　田口　昭一、髙橋　真一

3. 評議員会の開催

・第１回　令和７年６月 29 日(日)
　第１号議案　理事・監事選任の件
　第２号議案　令和６年度計算書類等並びに財産目録承認の件
　第３号議案　令和７年度事業計画承認の件

4. 理事会の開催

・第１回　令和７年６月６日(金)
　第１号議案　理事・監事再任（選任）の件
　第２号議案　令和６年度事業報告の件
　第３号議案　令和６年度計算書類等並びに財産目録の件
　第４号議案　令和７年度評議員会開催の件
　第５号議案　上永谷西保育園 連携園締結の件

・第２回　令和７年６月 30 日(月)
　第１号議案　理事長および業務執行理事選任の件

・第 3 回　令和 7 年 8 月 29 日(金)

第 1 号議案　かわしり保育園 大規模改修工事に関する借入について

・第 4 回　令和 7 年 12 月 3 日(水)

第 1 号議案　かわしり保育園 大規模改修工事に関する入札にかかる契約締結方法等について

・第 5 回　令和 8 年 1 月 9 日(金)

第 1 号議案　かわしり保育園 大規模改修工事に関する落札業者の決定について

第 2 号議案　かわしり保育園 大規模改修工事に関する積立金取崩について

・第 6 回　令和 8 年 2 月 26 日(木)

第 1 号議案　令和 7 年度補正予算（案）

第 2 号議案　ごしょの保育園園長交代の件

第 3 号議案　阿久和キッズ横浜市指導監査結果に対する再発防止策の件

第 4 号議案　各種規程改正（案）

・第 7 回　令和 8 年 3 月 25 日(水)

第 1 号議案　令和 8 年度事業計画（案）

第 2 号議案　令和 8 年度予算（案）

第 3 号議案　令和 8 年度積立金取崩の件

第 4 号議案　職員給与規程の改正（案）

5．重点施策

(1) 人事評価制度を活用した人財育成と公正・公平な人事考課の両立

今年度は、人事評価制度を本格的に運用し、「人財育成」と「公正・公平な人事考課」の両立を目指した取り組みを進めてきた。この制度を効果的に活用することで、法人本部および保育園の計 7 拠点における事業計画を、職員一人ひとりの自己成長と結びつけながら推進することができた。

人事評価制度の柱の一つとして位置づけている、姉妹園交流を兼ねた法人主催の研修会も予定通り開催した。研修後のアンケートでは、「新たな気付きや学びを職場で実践したい」、「より成長したい」という前向きな意見が多く寄せられた。法人としてもこれらの声を踏まえ、現状に満足することなく、今後も研修内容のさらなる充実を図っていく。姉妹園の職員同士が共感し合い楽しく学べる環境は、自己啓発意欲の向上と組織活性化の大きな原動力になると確信している。

また、年度末には全職員を対象に人事考課を実施した。園長（必要に応じて主任も同席）と事務長による一次考課、そして理事長と園長による二次考課を慎重に行い、各職員の努力や成果をこれまで以上に詳細に把握することができた。これにより、公正・公平な評価につながったと実感している。

特に目標成果シートについては、事業計画書の内容を踏まえ、各自の役職に求められる職務基準（ジョブマトリックス）を意識した目標設定や自己評価が、以前よりも具体的かつ明確に示されていた。

総括すると、当法人が人事評価制度を導入した主な目的は、下記の 3 点にある。

①人財育成による法人全体の活性化

②保育の質の向上

③職員の自己成長による仕事のやりがい向上

今後も、法人理念・保育理念を軸とした「三方よし経営（利用者満足・職員満足・地域貢献）」を追求し、法人に関わるすべての人々を幸せに導く組織づくりを推進していく。

(2)【第一期工事】夢を語り合いながら進める「かわしり保育園の大規模改修工事」

今年度は、基本・実施設計業務の推進、工事業者選定に向けた準備等を進めるとともに、大規模改修工事に向けた職員体制の整備を行った。法人本部が注力した主な取り組みは以下の通りである。

1）予算管理

全体工事費に対し、秋田市交付金、独立行政法人福祉医療機構からの借入、法人内施設整備積立金の活用により、令和 7 年度末時点で必要な財源確保の目途を立てた。また、物価高騰の影響を踏まえ、施工業者との協議を行いながら、適正なコスト管理に努めた。

2）工程管理

令和 8 年 6 月の仮設園舎への第 1 次引越し、その後の仮設園舎での運営を経て、令和 9 年 1 月の新園舎完成および第 2 次引越しまでの全体工程について見通しを立てた。園長および職員、関係業者と連携を図り計画通りの進行に努めている。

3）夢広がる工事仕様の検討

設計事務所による図面をもとに、職員会議等で意見交換を重ね、保育現場の視点を反映した設計検討を進めた。建築設計士による定期的な来園により円滑な情報共有を図り、外観パース図の作成を通じて新園舎のイメージ共有も図り、職員が主体的に参画できる環境作りを進めた。

4）職員体制の安定化

令和 7 年度末に 1 名の退職があったが、新規採用により必要な人員体制を維持した。また、2 名の保育士が産前産後休業・育児休業に入るものの、令和 8 年度内の復帰を予定しており、保育運営への大きな影響はない見込みである。

令和 7 年度は主任以下が変わる新体制であり当初は慌ただしい感が否めなかったが、年度末になると一体感を感じ、職員からのたくさんのアイディアが出るなど雰囲気が明るくなり、今後が楽しみな職場の一つになってきている。

なお本工事は、施設整備のみならず、職員の意見を反映した保育環境の再構築を目的とした重要な事業であり、今後も安全かつ計画的に推進していく。

(3)積極的な地域共生社会への取り組み

1）すべての人が生き生きと生活できる社会の実現

社会福祉法人として法的義務に加え、地域共生社会の実現に向け重要な役割として考えている障がい者雇用の推進について、令和７年度より上永谷西保育園で１名の雇用をおこなった。その職員の定着化も図りつつ令和８年度に向け阿久和保育園と西柴保育園でも１名ずつ障がい者雇用を目指し進めてきた。西柴保育園については雇用に繋がらなかったが、阿久和保育園では令和８年５月より雇用する予定となっている。

今後は障がい者の働く場の提供という意識ではなく、障がい者の自己肯定感向上につながる業務割り当てにも十分配慮し、定着に向けたフォローを行っていく。最終的には障がい者であることを意識することなく共に働くことが当たり前の職場環境を構築していく。

2）木育活動を通じてSDGsの重要性を伝承

先行して木育活動を推進してきた西柴保育園を筆頭に、令和７年度は阿久和保育園と阿久和キッズでも木育ひろばを開催し、園児や保護者はもちろん、地域の親子にも参加していただき盛大に行われた。上永谷西保育園については令和８年度より木育ひろばを開催していく予定であり、これにより横浜地区すべての園での木育ひろばの開催が実現する。この木育ひろばを通して、子どもたちに木育のすばらしさや木材の温かさを伝え、自然との関わりを深め五感を刺激することで、豊かな心を育むことを大事にしていく。

木育活動は、数値で測れるテストの点数、偏差値、IQなどの認知能力に対し、数値化が困難な目標を達成する力、自制心、共感力、コミュニケーション能力など非認知能力を遊びの中で学べる効果的な活動と考えている。木育を推進していくことは、保育理念で大切にしている自己肯定感が高まる保育の実現にもつながると確信している。

最後に、健全な自然の循環サイクルについて木育活動を通じて体験し、SDGsへの理解を体感で学ぶことにより、いつかこの経験を通じて環境保全の重要性にも気付ける心優しい大人になってもらえると確信している。

今後は、2027年（令和9年）横浜で開催されるGREEN×EXPO2027（2027年国際園芸博覧会）に向け、各保育園でさらに踏み込んだ木育活動を主体的に取り組んでいく。

6. 職員内訳

(令和 8 年 3 月 31 日時点)

	園長	保育士	保育補助	栄養士	調理員	事務員	看護師	合計
法人本部	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名	1 名	0 名	1 名
ごしょの保育園	1 名	28 名	2 名	3 名	2 名	2 名	2 名	40 名
かわしり保育園	1 名	17 名	1 名	2 名	1 名	1 名	1 名	24 名
阿久和保育園	1 名	25 名	6 名	3 名	2 名	2 名	1 名	40 名
西柴保育園	1 名	17 名	1 名	1 名	3 名	1 名	1 名	25 名
上永谷西保育園	1 名	23 名	3 名	4 名	0 名	1 名	1 名	33 名
阿久和キッズ	1 名	8 名	0 名	1 名	1 名	0 名	0 名	11 名
合計	6 名	118 名	13 名	14 名	9 名	8 名	6 名	174 名

7. 児童数の状況

	定員数	児童数(月平均)
ごしょの保育園	160 名	127 名／月
かわしり保育園	60 名	52 名／月
阿久和保育園	80 名	84 名／月
西柴保育園	60 名	68 名／月
上永谷西保育園	80 名	83 名／月
阿久和キッズ	19 名	19 名／月
法人合計	459 名	－

以上

令和８年６月２日

令和７年度
ごしょの保育園 事業報告書

1. 事業内容

・保育事業　　・延長保育事業　　・一時預かり保育事業
・病児保育事業（体調不良児対応型）　・障害児保育事業

2. 保育園をめぐる状況

・我が国の喫緊の課題である少子高齢化。その最先端を走っている秋田市。ベッドタウンとして多くの住宅やアパートが立ち並ぶここ御所野地区においても、少子化は急速に進んでいる。そのため、今年度は０歳児の受け入れ人数を１２人に減らして対応してきたが、今後は、受け入れ人数だけでなく定員そのものを見直しつつ、地域の実情に合わせた規模の適正化を進めていかなければならないと感じている。
・今年度の秋田市における最も大きな課題は、クマの出没に対する対応であった。里山や山里に限らず、中心市街地でも連日クマが目撃され、多くの被害が発生した。本園の周辺も例外ではなく、多くの目撃情報が寄せられた。そのため、園児の安全確保を最優先に考えて多くの園外活動を制限せざるを得なかった。また、園外活動を実施する場合も、情報の収集や下見の徹底、熊鈴やホイッスル、クマ撃退スプレー等を携行するなど、できる限りの対策を行ってきた。今年度以降も、事前の対応準備と心構えが大切になる。特に、園内への侵入を防止する対策は急務であり、法人本部とも連携しながらフェンスや門扉の設置等の対応を考えていきたい。
・設備や備品に関しては、必要に応じて柔軟に更新や修繕に取り組んできたが、思った以上に経年劣化が進んでおり、緊急で対応しなければならない案件が年度当初の想定を超えて発生した。今後も同じような状況が考えられるが、法人本部とも連携を取りながら適宜適切に対応していきたい。

3. 重点施策

(1)子どもの主体性を尊重した保育の充実を図る。

園行事や日々の保育の中で、子ども一人ひとりの思いに寄り添い、子どもたちができる限り自己決定をしながら活動できるように援助することを意識して今年度も取り組んできた。特に、運動会や発表会においては、子どもたちの思いや願いを生かした競技や演目としようとする意識が保育士の中で共有され、実現されている。そのため、子どもたち自身の思いが生かされ、自分たちで作り上げる喜びを実感することができている。子どもたちの主体性が着実に育まれているのを感じている。

(2)地域とのかかわりを大切にした保育を展開する。

少子高齢化が加速度的に進む中、地域の子どもを大切にする思いと地域活性化に向けた活動意欲は大いなる高まりを見せてきている。そのため、子どもたちが地域とのかかわりをもつ機会が増えてきている。近隣の幼稚園や小学校、中学校、高齢者施設や養護施設、地域団体と様々な交流を重ねるたびに、「地域の方々に見守られている、支えられている、愛されている。」と実感することができ、自己有用感や自己肯定感を高める良い機会となった。これからも積極的に地域とのかかわりを求め、地域とともに子どもを育む園運営を進めていきたい。

(3)業務改善を進め、よりよい職場環境づくりを進める。

職員が未来を担う子どもたちの健やかな成長を支えることに誇りをもち、やりがいを感じながらゆとりをもって働くことができるように業務改善を進めてきた。お便りや保護者への連絡のおが～るシステムでの配信や集金業務の口座引き落としの定着化、お泊り保育を廃止と新たな夜まつりの設定、その他行事の見直し等、業務改善プロジェクトに基づいた改善をできる限り行ってきた。今後も、のりしろをつけた始末ある仕事と協働の意識を大切にしながら、業務改善を進め、チーム保育の質の向上を図っていきたい。

4. 地域共生社会に向けた取り組み

(1)地域丸ごとのつながりの強化に向けて

御所野幼稚園と御所野小学校とは、幼保小の連携を通して、情報の共有や交流を図ってきた。また、御所野学院中学校、高校とは、職場体験学習やインターンシップなどを通して、子どもとの触れ合いや情報交換などの機会を設けてきた。地域の高齢者施設とは、さつまいもの苗植えや収穫、ふれあい竿燈、もちつき会、移動動物園などに招待していただき、施設利用者との交流が活発に行われた。加えて、御所野全地域が一同に開催する御所野夏祭りに年長児が参加し、「よっちょれ」を披露した。このように、地域行事や活動へ積極的な参加をし、世代を超えた交流をもつことができ、子どもたちも地域から愛されていることや受け入れられていることを十分に感じることができた。引き続き、地域に根ざした保育園を目指して、積極的・意図的に交流を図り、つながりの強化をすすめていきたい。

(2)地域を基盤とする包括的支援の強化に向けて

ごしょの保育園の子育て支援・相談は、毎月 1 回老人福祉介護施設で地域の子育て世帯を対象に行っている。今年度から、更なる充実を図るべく、栄養士が毎回参加し、食育や離乳食などの悩みや相談にも対応できるようにした。また、HP での呼びかけの他に、御所野地域以外のスーパーなどにも子育て支援のポスター掲示をお願いし、より多くのご家庭の目に届くような工夫を図ったことで、徐々に参加するご家庭も増えてきた。今後も、地域のニーズにあった支援の在り方を考え取り組んでいきたい。

また、障がい者雇用を継続し 4 年目を迎える。これまでの経験や他職員と一緒に取り組みながら主体的に業務を進めている。障がい者雇用をすすめることは、子どもたちにとっても、多様な人と関わりながら育つ貴重な学びの機会になると考える。

今後も福祉施設として、全ての人が尊重される社会の在り方を示すことができるよう、微力ではあるが継続していきたい。

5. 施設整備及び備品等購入

実施項目	件名	金額（単位：千円）	備考（実施時期）
施設設備	哺乳瓶消毒保管庫修繕	218 千円	4 月
施設設備	園庭の日よけ対策	80 千円	6 月
施設整備	園庭木造造作物の撤去	220 千円	１０月
未実施項目	件名	金額（単位：千円）	未実施の理由（背景）
備品購入	給食運搬用ワゴン	100 千円×２	現有ワゴンを継続使用

6. 部門別保育年度達成状況（経過記録）

（1）乳児保育部門

0 歳児・保育者の愛情のもと、一人ひとりの生理的欲求が満たされ、安定した生活ができた。

1 歳児・保育者に見守られながら、身近な人や物に興味をもち、関わりを広げることができた。

2 歳児・保育者や他児と生活する中で、様々なことに興味や関心をもち、自分でやろうとする意欲を高めることができた。

（2）幼児保育部門

3 歳児・保育者や友だちと関わる中で、自分の気持ちを出しながら遊びを楽しむことができてきている。

・園生活の流れが分かり、身の回りのことを自ら行い、決まりを守って過ごせるようになってきている。

4 歳児・様々なことに興味、関心をもち、友達との関わりを楽しみながら、自分の思いを伝えたり相手の思いに気付いたりすることができてきている。

・自分の健康に関心をもち、身の周りを清潔にすることの心地よさに気付いてきている。

5 歳児・友達と相互に自分の考えを出し合ったり、心を通わせながら遊びを生み出したりしながら、目標に向かって行動することができてきている。

・一人ひとりが主体性をもち、遊びや社会生活において必要な事柄や態度を身に付けてきている。

（3）給食部門

・安全で安心な給食の提供に努めた。
・衛生管理の徹底と衛生マニュアルを遵守した給食作業の継続に努めた。
・食物アレルギー対応をしっかり行い、食事提供の原則をして「組織的対応、完全除去、安全配慮」を実践し、「誤食と誤配膳の防止」を職員全体で徹底した。
・年間食育計画の改善を進め、年齢の育ちに合わせた活動を進めることができた。
・複数人いる栄養士の利点を生かした献立になるよう、季節の食材、郷土食、行事食等、工夫をこらして取り組むようにした。

・離乳食の進行に応じて保護者との連携を深め、0歳児からの食事に関わり、安心感を与える支援を行えるようにした。

(4) 子育て支援部門

保育所を利用している保護者に対する子育て支援

・保護者が子どもの成長に気付き、子育ての喜びを感じることができるよう、保護者のそれぞれの状況に配慮しつつ、良好な信頼関係を築きながら関わるよう努めた。

・子育てに悩んだり、不安を感じたりする保護者を支援するため、子育てを楽しむ方法の紹介に努めた。(食育、看護、子どもとの関わり方、親子で楽しめる遊び等)

地域の保護者等に対する子育て支援

・未就園児を対象として、地域のシルバー交流センターで行っている子育て支援活動では、栄養士の派遣も含め、可能な限りの保育所保育の専門性を活かした子育て支援ができるよう努めた。(リズムあそび、ベビーマッサージ、親子で一緒に制作、離乳食や食育の相談等)

(5) 地域交流部門

近隣の中学校・高校との交流

・行事等を通しての交流に積極的に応じ、職場体験やボランティア等の受け入れを行った。また、相互の特性を理解、把握した上で、必要に応じて協議し、交流を図ってきた。

・リズムあそび発表会や避難訓練など、相手施設を活用しての活動にもたくさんの協力をいただいた。

地域の福祉施設(シルバーエリア、ふれあいセンター、けやき会等)との交流

・国、県、市の様々な感染症発生状況を確認しながら、さつまいもの苗植えや収穫、ふれあい竿燈、移動動物園、餅つき会など、積極的に交流を行った。

(6) 姉妹園交流部門(かわしり保育園)

・じゃがいもやさつまいもの苗植えや収穫、竿燈壮行会への参加等、行事を通しての交流を行うことができた。

・職員についても、必要に応じた意見交換、竿燈への職員の派遣、合同での研修会参加等の交流を進めることができた。

7. 定員数・全園児数の平均・職員数

(1)定員数

クラス	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
定員(人)	25	27	27	27	27	27	160

(2)全園児数の推移(実績の推移)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均数
全園児数(人)	123	123	124	125	125	126	127	128	130	131	132	133	127

(3)職員数(令和８年３月 31 日時点)　　(単位：人)

職種	園長	保育士	保育補助	栄養士	調理員	事務員	看護師	合計
正職員	1	15	0	3	0	1	1	21
嘱託職員	0	0	0	0	0	0	1	1
非常勤職員	0	13	1	0	2	1	0	17
障がい者人財	0	0	1	0	0	0	0	1
シルバー人財	0	0	0	0	0	0	0	0
							合計	40

8. 実施行事

(1) 実施行事一覧

月	日	名称 (実施した行事すべて記入)	内容 (事業計画にない行事のみ記入)
4	1	辞令交付	すべての職員に辞令を手交した。
	8	おおきくなったね、おめでとうの会	新入園児や在園児が入園、進級をお祝いした。
	17	じゃがいも苗植え	御山野楽校で５歳児の子どもたちが苗植えをした。
	28	バスでおでかけ（4歳児）	４歳児がバスで近隣の公園にお花見に出かけた。
5	2	こいのぼり集会	子どもたちの健やかな成長をみんなでお祝いした。
	13	バスでおでかけ（３歳児）	３歳児が園バスで近隣の公園にお出かけした。
	15	内科健診	全園児を対象に、園医による健診を行った。
	28	サツマイモの苗植え	シルバーエリアの畑で４，５歳児が実施した。
	29	バスでおでかけ（５歳児）	５歳児が岩城少年自然の家でザリガニ釣りをした。
6	5	歯科健診	全園児を対象に園歯科医による健診を実施した。
	7	５歳児保育参観・ｸﾗｽ懇談会	保護者を迎えて保育参観後に懇談会を実施した。
	11	バスでおでかけ（４歳児）	４歳児がねぶり流し館を見学した。
	11	幼保小交流会	５歳児が小学校、幼稚園の子どもたちと交流した。
	12	不審者対応訓練	職員を対象に、警察署員による訓練を実施した。
	13	水泳教室（５歳児）	５歳児がアスレチッククラブで水泳教室を行った。
	19	バスでおでかけ（３歳児）	３歳児がバスで近隣の公園にお出かけした。
	20	交通安全教室	秋田市交通指導員が５歳児を対象に実施した。
7	3	水泳教室	４歳児がアスレチッククラブで水泳指導を受けた。
	7	七夕集会	短冊を竹に飾り、日本文化の良さに触れた。
	18	じゃがいも掘り	御山野楽校で５歳児がじゃがいも掘りを行った。
	26	救命救急講習会	消防署員を講師に迎え、AED の講習を行った
	30	夏祭りごっこ	園児と職員全員で手作りのお祭りを楽しんだ。
8	1	かわしり竿燈壮行会	５歳児がかわしり保育園の竿燈壮行会に参加した。
	5	交流センターふれあい竿燈	天候不良のため中止となった。
	6	バスでおでかけ（４歳児）	４歳児が県立博物館を見学した。
	8	ごしょの夜まつり	５歳児が夜の保育園で花火や肝試しを楽しんだ。
	19	水泳教室（５歳児）	５歳児がアスレチッククラブで水泳教室を行った。
	23	御所野地区夏まつり	５歳児が地域の方々に踊りを披露した。
9	13	運動会	雨天のため小学校の体育館で実施した。
	26	３歳児遠足	３歳児がバスで大森山動物園に見学に出かけた。
10	1	リズムあそび発表会	中学校の体育館を借用して以上児が発表した。
	7	遠足（４歳児）	大森山動物園を見学した。

	9	遠足（５歳児）	岩城児童センターで遊んだ。
	15	さつまいもほり（4 歳児・5 歳児）	クマ出没のため、中止となった。
	16	内科健診	園医に、子どもたちの健康状態を診ていただいた。
	18	保育参観・懇談会（３歳児）	３歳児の保育を保護者に公開し、懇談会を行った。
	25	保育参観・懇談会（４歳児）	４歳児の保育を保護者に公開し、懇談会を行った。
11	14	交通安全教室	市交通指導員が来て、４、５歳児に指導した。
	15	２歳児お楽しみ発表会・懇談会	日々の生活の中で学んだ成果を保護者に披露した。
12	13	３歳以上児発表会	3 歳以上児が、クラスごとに学習の成果を発表した。
	24	クリスマス会	ホールで全員がクリスマスを楽しんだ。
1	6	あけましておめでとうの会	新しい年を迎え、全員でお祝いをした。
	8	交流センター餅つき大会	４，５歳児が参加して、餅つきを楽しんだ。
	17	１歳児お楽しみ会・懇談会	親子一緒に様々な遊びを楽しんだ。
	24	０歳児お楽しみ会・懇談会	親子一緒に様々な遊びを楽しんだ。
2	3	豆まき会	新聞紙のボールを使って豆まきを楽しんだ。
	5	御所野幼稚園雪まつり	幼稚園の招待を受け、雪まつりを一緒に楽しんだ。
	21	５歳児保育参観・懇談会	５歳児クラスの最後の保育参観・懇談会を行った。
	28	第三者苦情委員懇談会	第三者苦情委員の皆様から、ご意見をいただいた。
3	3	ひな祭り会	ひな人形を飾り、子どもたちの成長をお祝いした。
	7	卒園式	ごしょの保育園ホールにて卒園式を開催した。
	9	交通安全教室	3,4,5 歳児が交通安全について学んだ。
	13	ばらくみさんありがとうの会	卒園児に、在園児が感謝の気持ちを伝えた。

(2) 令和 8 年度に向けた検討事項

○園行事及び園運営について、業務改善 PJ での決定事項やこれまでの取り組みの意義、成果と課題を踏まえて、常に「改善」の視点をもちながら検討を続けていく。

○各種行事の内容について吟味を継続し、子どもたちの主体的な参加を促す手立てや方策について検討を重ねること。

○行事面においても職員 1 人ひとりの負担が増えすぎることのないよう、働き方改革に結びつくための具体的な方策や手立てについても検討すること。

9. 研修報告

(1) 研修報告一覧

月	日	研修名（受講した研修はすべて記入）		研修内容（事業計画にない研修のみ記入）
		処遇改善Ⅱ対象の研修	左記以外の研修名	
4	12		秋田市地区保育士会総会	総会及び講演会
	15		秋田市施設長会	総会及び講演会
	30	園長等運営管理協議会		説明事項及び講演会
5	1		架け橋プログラム研修Ⅰ	講話及びグループ協議
	14		研究部会	連絡事項の伝達及び意見交換
	15		南部地区子育て支援連絡会	情報交換及び講演会
	15		主任保育士部会	情報交換及び協議
	16	教頭・主任等研修会		講話及び分科会協議
	27		秋田市施設長会	連絡事項の伝達及び意見交換
6	10		幹事会	連絡事項の伝達及び意見交換
	11		架け橋プログラム研修Ⅱ	講話及び分科会協議
	11		研究部会	連絡事項の伝達及び意見交換

	13		給食担当者部会	連絡事項の伝達及び意見交換
	21		コミュニケーション研修	講話及びグループ協議
	21		メンタルヘルス研修	講話及びグループ協議
	24		秋田市施設長会	連絡事項の伝達及び意見交換
	26		就学前教育理解研修会Ⅰ	講話及びグループ協議
7	8		保育実践力習得研修Ⅰ	講話及び分科会協議
	9		研究部会	連絡事項の伝達及び意見交換
	10		園内研修Ⅰ	講師による講話及び協議
	14		園内研修Ⅱ	講師による講話及び協議
	17		保健部会	連絡事項の伝達及び意見交換
	25	園内研修担当者研修会		講話及びグループ協議
	26		救急救命講習	消防署員を講師にAED講習
	30		主任保育士部会	講話及び協議
	31		秋田市施設長会	連絡事項の伝達及び意見交換
8	5		秋田市幼児発達支援説明会	説明及び質疑応答
	22		特定給食施設研修会	講話及びグループ協議
	28		秋田市施設長会	連絡事項の伝達及び意見交換
9	2	園長等運営管理協議会		講話及びグループ協議
	12		給食担当者部会	連絡事項の伝達及び意見交換
	25		秋田市施設長会	連絡事項の伝達及び意見交換
10	3		保育実践力習得研修Ⅱ	講話及びグループ協議
	7		幹事会	意見交換
	8		研究部会	連絡事項の伝達及び意見交換
	22		主任保育士部会	連絡事項の伝達及び意見交換
	24		秋田市施設長会	連絡事項の伝達及び意見交換
11	7	園内研修担当者研修会Ⅱ		講話及びグループ協議
	12		研究部会	連絡事項の伝達及び意見交換
	14		給食部会	連絡事項の伝達及び意見交換
	14	教頭・主任等研修会		講話及びグループ協議
	25		秋田市施設長会	連絡事項の伝達及び意見交換
1	14		研究部会	連絡事項の伝達及び意見交換
	16		秋田市施設長会	連絡事項の伝達及び意見交換
2	3		幹事会	連絡事項の伝達及び意見交換
	13		給食担当者部会	連絡事項の伝達及び意見交換
	14		コミュニケーション研修	講話及びグループ協議
	14		メンタルヘルス研修	講話及びグループ協議
	25		秋田市施設長会	連絡事項の伝達及び意見交換
	26		保健部会	連絡事項の伝達及び意見交換
3	26		秋田市施設長会	連絡事項の伝達及び意見交換

(2) 令和８年度に向けた検討事項

○職員１人ひとりのキャリア形成を見据えた、キャリアアップ研修の計画的な受講を引き続き推進すること。

○自分自身の力量向上を目指した諸々の研修や法人研修への積極的な参加と、姉妹園職員とのコミュニケーションを深められるような機会の充実。

○園内研究に資する研修への職員の参加を検討すること。

以上

令和８年６月２日

令和７年度
かわしり保育園 事業報告書

1. 事業内容

・保育事業　・一時預かり事業　・延長保育事業　・障害児保育事業　・休日保育事業

2. 保育園をめぐる状況

・年度末には定員６０人を必ず超えていた園児数であるが、今年度も、前年度に続きその水準には達しなかった。秋田市においても今まで定員の２割増しまでの入所数となっていたが、少子化が顕著であることから、次年度からは定員までとなる見込である。保護者から選ばれる魅力ある保育園づくりのために、きめ細かな子どもや保護者への対応を進めているが、入所状況は上向いていない。改修による新園舎での保育環境の改善をベースに、地域との共生活動、竿燈などの行事等の検討、業務改善等、様々な観点からかわしり保育園の魅力アップを職員全体で考えていく必要がある。

・大規模改修工事については、秋田市の補助金の認可もおり、保護者・地域説明会、基本設計、実施設計、その後の入札、仮設園舎への着手と法人の強力なバックアップのもと順調に推移した。保護者送迎時駐車場の確保等、難儀する場面もあったが、近隣地域施設の協力も得て何とかクリアできた。次年度は仮設園舎への引っ越し、新園舎へのもどり、保護者の理解・協力、園庭のないことによる他施設の活用等、様々なことを想定して、子どもたちの活動が不足しないよう、配慮したい。

3. 重点施策

(1) 一人ひとりの子どもの良さや特性に配慮したバランスのとれた保育

発達に課題を抱えた子どもが増えてきている現状から、秋田市子ども育成課の要請訪問を依頼し、5月に「子どもを語る会」を実施した。子どもへの関わり方、こんなとらえ方もあるのではないかと率直な意見交換、指導を受ける場となり、効果的であった。新たに加わった職員とも、園としての子どもの良さを見つけていこうという方向性が共有できた。また、基本的な「報連相」「子どもの状況のこまめな記録」等の徹底を図り、園としての子ども理解が深められた。

(2) 働きがいのある職場と協働性の構築

新しく働き始める職員も増えたことより、きめ細かな情報共有が必要であるということから、定期的なミーテングの機会を増やした。目標成果シートやジョブマトリックスなどを通じて、自分の仕事の方向性や想いを相互に確認できたことも大きかった。それぞれの強みと弱みを互いに補完しながらワンチームとして協働性を高めることを心がけた。また、手助けが必要な時は、お助けボードに記入し、力を合わせて仕事に取り組むように、全職員で助け合うという意識を強めた。

(3)　職員の資質能力の向上

子どもたちの健全な成長と発達を支える重要な使命をもっていることの自覚を職員会議や打ち合わせ等、様々な場を活用して浸透を図った。子ども一人ひとりの気持ちに寄り添うこと、個々の興味・関心を大切に子どもたちが安心して遊べるよう、全職員で見守ることを徹底した。秋田県幼保推進課の前後期のキャリアアップ研修を活用することで、履修が順調に進んだ。コミュニケーション研修など法人独自の研修は、職場としての温かな人間関係づくりをあらためて意識させた。

(4)　クラウドデータ管理の徹底

USB メモリ等での個人情報漏洩やデータ消失を防止するために、園内のデータをハードデスクとクラウドを適切に処理し、セキュリティの向上に努め、階層的なファイル管理も徹底されてきた。次年度は、おがーるシステムのさらなる有効活用も含めてＩＣＴによる業務の効率化に取り組みたい。

4. 地域共生社会に向けた取り組み

(1)　子育て支援の拠点としての保育園の役割

地域の子育て施設の拠点として、子育て講座等の大がかりなイベントは実施出来なかった。大規模改修工事終了後は、大ホールも完成するため地域に開放したイベントの企画の幅が広がると期待している。外部で開催されている様々な子育てに関する情報については、園内へのポスター掲示、パンフレット配布などできる限り保護者に届けることで、子どもたちが参加する機会も増えている。

(2)　地域交流の推進

秋田竿燈まつりを通して、指導を受けた毘沙門町竿燈会の方々、一緒に指導を受けた卒園生、竿燈壮行会での姉妹園園児や竿燈本番での観衆等のふれあいなど、多くの方々との交流で関わりを深めた。これまで、交流のなかった近隣施設からもお声がけいただき、ハロウィンでのやりとりや地元竿燈会の演技披露の見学等、交流の輪が広がった１年であった。今後も引き続き、地域との交流を拡充していきたい。

(3)　障がい者雇用等に向けた具体化の検討

シルバー人材センターに依頼し、今年度も保育補助要員として、週４日勤務の職員１人をお願いした。数年にわたり勤務をお願いしている人ということで、職員との連携もとれ、子どもたちの多様な年代者との関わりの機会となっている。障がいのある方の雇用も模索したが、適切な人を見つけられず実現にいたらなかった。今後もかわしり保育園で必要な人材として、どんな仕事をしてもらうのか、地域共生社会を念頭に具体的に検討を継続したい。

5. 施設整備及び備品等購入

実施項目	件名	金額（単位：千円）	備考（実施時期）
施設整備	大規模改修工事基本設計 令和 7 年度分	4,458 千円	6 月
備品購入	ＰＣの補充 3 台分	5 年リース 60 回払 月 13 千円	１０月　windows１１ へのアップグレード
未実施項目	件名	金額（単位：千円）	未実施の理由（背景）
施設整備	ぞう組エアコン修理	150 千円	業者に再度点検してもらったところ、基板だけ交換しても高額で耐久年数も限られているという判断だったので、スポットクーラーで対処し、大規模改修時に全面交換することとした。

6. 部門別保育年度達成状況（経過記録）

（1）乳児保育部門

乳児：・子どもたちの発達に合わせた、手作り玩具や手遊び、踊りなど取り入れることを心がけた。また、子どもたち一人ひとりの反応を大切にし、共感したり寄り添ったりし、安心して楽しむことができるようにした。どの子どもも伸び伸びと成長してくれたと思う。

1 歳児：・自己主張が強まる時期の中、叫んだり、物を投げて気持ちを示す姿も多く見られたが、その都度、言葉で丁寧に応えたり、言い換えることで少しずつ、思いを言葉で伝えようとする姿がだいぶ見られるようになった。

・身の回りのことは、一人ひとり興味をもつタイミングで一緒に取り組むことで自分から意欲をもって取り組む姿につなげるようにした。個人差はあるが、走ったり、くぐったり、ジャンプしたりと個々のペースに合わせて活動や環境を工夫することで、様々な動きを楽しむ姿が見られている。

2 歳児：・自分の思いを泣いて表現する姿が多かったが、言葉で伝えるようになり、保育者友だちとやりとりすることを楽しめるようになった。

・身の回りのことは少しずつ自分でできるようになる。特に進級に向けての取組は意欲的で、習慣になってきている。

（2）幼児保育部門

3 歳児：・生活の仕方を覚え、身の回りのことも自分でできている。しかし、肌着が出ていても気にしなかったり、靴下のかかとが上にきていても気にしなかったりという子どももいるため、その都度声をかけて知らせてきた。

・以上児クラスになり、経験することも増えた。そのことにより、表現することを楽しんでいる。友だちとの関わりも多くなり楽しんでいる分、友だちとのトラブルもあるが、友だちを気にする姿も多く見られるようになり、子どもたちの成長を感じる。

4 歳児：・日常的に園外での活動をたくさん取り入れ、公園などで体をたくさん動かして遊ぶことができたのでよかった。冬季は雪が少なかったので、もっと室内で体を動かせるとよかったと思う。また、行事を通して１つの目標に向かってクラスみんなで頑張ることができ、一人一人の成長を感じることができた。まだ自分本位なところが多いクラスだが、少しずつ相手の話にも耳を傾けられるようになってきているので、これからも色々な人との関わりを増やしていけるといいと思う。

5 歳児：・当初、自分の気持ちを表せない子が多かったが、発表の機会を設けたり、様々な行事を経験したりしながら成長できたことで、自信につながり、伝え合うようになった。仲間と一緒に過ごす中で認め合ったり、励まし合ったり、意欲的に活動できるようになった。

（3）給食部門

・今年度はアレルギー対応もあり、その都度複数人で確認し、原材料なども意識しながら取り組むように努めた。毎日の給食提供を通し、子どもたちだけではなく、保護者との会話も増え家庭での様子なども知ることができた。次年度も食材への興味・関心が深まるような働きかけを心がけたいと思う。

・クイズやクッキングを通して食への興味がわくきっかけづくりになったと思う。また、アレルギー対応や離乳対応も誤食なく行うことができた。食器や食具もその都度担任と話し合いながら丁寧に合ったものを提供できた。

（4）地域交流部門

・中学校などの職場体験やボランティアを積極的に受入れ、子どもたちとの交流活動も充実した。川尻小学校の体験入学には、学区にかかわらず全園児が教室に入り小学１年生とのふれあいを深め、共にクイズを楽しむなど、小学校生活への期待感を高めた。

・毘沙門町竿燈会からの指導を受け、今年もあきた竿燈まつり初日に年長児、卒園児（小学１年生）そして職員、園をあげて参加した。多くの観衆が見守る中で、堂々と太鼓や竿演技を披露した。怪我等もなく安全に取り組めたことが何よりであった。郷土のまつりを存分に楽しんだ。

・ごしょの保育園や山王幼稚園の子どもたちとは、御山野楽校やシルバーエリアで一緒に活動を楽しんだ。自己紹介や御山野楽校ガイダンスの場を利用して挨拶や一緒に遊ぶなどのふれあいの機会をもち、充実した時間を過ごした。

（5）子育て支援部門

・個人面談やクラス懇談会の機会を利用し、子どもの成長の情報共有を進めた。子どもを中心にすえ、常日頃から子どもの様子を伝え合うことで、家庭との連携や信頼関係をつくってきた。

・園開放行事については、「地域の就学前の親子が楽しんで遊べる」「子育ての話が気軽にできる交流」「かわしり保育園（の保育）を知ってもらう」という視点から企画をすすめ、活動を充実させた。入所予定者だけでなく地域からの参加も見られた。
・入園予定の子どもには、４月の時点で園開放予定日の通知を送った。園と関わる機会、話を聞く機会として積極的に設けるなど入園前の関係づくりにつながっている。

7. 定員数・全園児数の平均・職員数

(1)定員数

クラス	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
定員（人）	10	10	10	10	10	10	60

(2)全園児数の推移（実績の推移）

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均数
全園児数(人)	51	50	50	50	51	51	53	53	54	54	55	56	52

(3)職員数(令和 8 年 3 月 31 日時点)　　(単位：人)

職種	園長	保育士	保育補助	栄養士	調理士	事務員	看護師	合計
正職員	1	14	0	2	0	1	0	18
嘱託職員	0	0	0	0	0	0	0	0
非常勤職員	0	3	0	0	1	0	1	5
障がい者人財	0	0	0	0	0	0	0	0
シルバー人財	0	0	1	0	0	0	0	1
							合計	24

8. 実施行事

(1) 実施行事一覧

月	日	名称 （実施した行事はすべて記入）	内容 （事業計画にない行事のみ記入）
4	4	新入・進級を祝う会	
	17	じゃがいも植え	年長児が御山野楽校に行って、じゃがいも植えや、周辺の散策を楽しむ
	24	茶道教室	年長児の茶道体験
5	2	端午の節句集会	
	13	茶道教室	年長児の茶道体験
	15	内科健診	
	19	以上児クラス親子遠足	大森山動物園、ユースパルでのふれあい
	28	サツマイモ植え	年長児・年中児のサツマイモ植え体験
6	4	歯科検診	
	14	保護者会清掃作業	園舎内外を保護者と一緒に清掃奉仕活動
	17	茶道教室	年長児の茶道体験

7	3	アスレでの水泳教室	年長児・年中児のプール教室
	7	七夕集会	
	10	交通安全教室	以上児が交通ルールについて学習
	11	ジャガイモ掘り	年長児が御山野楽校でジャガイモ掘り
	14~16	夏祭り	園全体でお店やスイカ割りなど楽しむ
8	1	竿燈壮行会	本番前に、保護者や来賓の方々に竿燈演技を披露し、激励を受ける。
	3	竿燈祭り本番	竿燈祭り初日、年長園児・卒園児(小 1)・職員で山王大通りにて、太鼓や竿燈演技を披露
	18~22	個人面談	
	26	県立プール体験	年長児・年中児の県立プールで水泳教室
9	5~6	年長児お泊まり会	
	8	県立プール体験	年長児・年中児の県立プールで水泳教室
	12	スポーツ教室	年長児対象のスポーツ教室
	18	アスレでの水泳教室	年長児・年中児のプール教室
	29	交通安全教室	以上児が交通ルールについて学習
10	4	運動会	
	10	サッカー教室	年長児・年中児のサッカー体験
	16	茶道教室	
	16	内科健診	
	17	リンゴ狩り	年長児・年中児でリンゴ狩りを楽しむ
	30	ハロウィン行事	年長児・年中児で地域訪問
11	5	茶道教室	年長児の茶道体験
	6	サッカー教室	ホールでの年長児・年中児のサッカー体験
	13~14	中学生職場体験	園児が中学生と遊びました
12	6	お楽しみ発表会	
	8~12	個人面談週間	
	9	茶道教室	年長児の茶道体験
	24	クリスマス会	
1	7	新年を祝う会	
	9	園外活動	以上児の神社訪問
	15	茶道教室	年長児の茶道体験
	29	交通安全教室	以上児の交通ルールの学習会
2	2	節分集会	豆まき
	3	川尻小体験入学会	年長児全員参加で川尻小１年生と交流
	5	茶道教室	年長児の茶道体験　おしるし授与
	12	ネイガー交通安全教室	年長児を中心に園全体での交通安全
3	3	ひなまつり会	
	14	卒園式	
	18	年長児お別れ遠足	卒園を記念しての映画鑑賞策、お楽しみ会食
	19	茶道教室	年長児・年中児の茶道体験
	24	園内お別れ会	ぞうくみ園児を送る会を開催
	25	お別れバイキング	以上児のお楽しみ会食（年長児を囲んで）

(2) 令和８年度に向けた検討事項

・仮設園舎暮らしの中での各行事の取組の検討（竿燈、遠足、発表会等）

・園内掲示物等の精査と準備担当計画

・園庭のない期間での活動（園バスの有効利用、地域施設等のリストアップと活用等）

9．研修報告

(1) 研修報告一覧　※はオンライン研修

月	日	研修名（受講した研修はすべて記入）		研修内容（事業計画にない研修のみ記入）
		処遇改善Ⅱ対象の研修	左記以外の研修名	
4	12		秋田市保育士会総会	事業報告・事業計画
	15		幹事会	
	16		研究部会	
	17	新規採用者研修		
	18		秋田県保育士会総会	事業報告・事業計画
	24		秋田県保育協議会総会	事業報告・事業計画
	30		園長等運営管理協議会Ⅰ	※教育・保育の質の向上を図る評価を生かしたマネジメントについて
5	1		架け橋プログラムⅠ	※幼保小円滑な接続について
	15		主任保育士部会	
	16	教頭・主任等研修会Ⅰ		※保育の質の向上を目指した園作り
	19,23		園内研修（救命研修）	心肺蘇生法、ＡＥＤの扱い方　等
	22	保健部会		
	23		人事評価研修会①	横浜法人研修　人事評価、面談について
	24		人事評価研修①	横浜での法人研修（面談の技法等）
	27	新規採用者研修		あきたアドンチャープログラム
	27		施設長会	施設運営全般に関する情報交換　等
6	2		園内研修（発達支援）	子ども育成課要請訪問 支援が必要な子どもへの関わり方
	3	特別支援教育コーディネーター研修会		支援計画・指導計画の作成について
	5,6		実技研修（保護者・来客対応）	電話・来客対応等の実際
	6		秋田県保育研究会	全ての人が子どもと子育てに関わりを持つ社会
	9,12		園内研修（保健衛生）	嘔吐処理について
	10		幹事会	
	11		架け橋プログラム	※幼保小円滑な接続について
	11		研究部会	
	13		給食部会	
	19		新規採用者研修	乳幼児理解に基づく環境構成と保育者の援助について
	19,20		園内公開研究	４歳児クラス公開園内研究
	21		法人主催研修	コミュニケーション研修 メンタルヘルス研修
	24		施設長部会	秋水会、自民党との懇談会について
7	1,4		園内研修（保健衛生）	感染予防について
	7,8		園内公開研究	３歳児クラス公開園内研究
	9		防火管理講習	防火管理の意義と制度の概要
	9		研究部会	
	14,15		実技研修（渉外）	苦情・クレーム対応

	17, 18		園内研修（不審者対策）	不審者対応研修
	17		保健部会	
	17		新規採用者研修	
	25		園内研修担当者研修	研修において目標を達成するためには
	30		主任保育士部会	食で変わる心とカラダ
8	5		幼児発達支援事業説明会	※キッズステップノートの活用の仕方等
	7,8		園内公開研究	2歳児クラス公開園内研究
	22		人事評価・面談研修	法人主催　人事評価研修「聴く」
9	2		園長等運営管理協議会Ⅱ	※教育・保育の質の向上を図る評価を生かしたマネジメントについて
	12		給食部会	
	17		新規採用者研修	乳幼児と保護者との信頼関係
	11,12		園内公開研究	1歳児クラス公開園内研究
	25		施設長部会	施設運営全般に関する情報交換
10	4		園内研究（虐待　等）	「虐待」「不適切保育」を考える 災害時対応
	6		特別支援教育コーディネーター研修会	保護者との関係づくり
	7		幹事会	
	8		研究部会	
	8,9		園内公開研究	5歳児クラス公開園内研究
1	17		地区保育士会学習会	
	23	主任保育士部会研修会		防災対策
	24		施設長部会	
	30		人事評価説明会	法人人事評価についての学習
11	1	教頭主任等研修会Ⅱ		園運営の改善を図る学校（園）評価
	4，5		園内公開研究	0歳児クラス公開園内研究
	11	新規採用者研修		
	12		幼保小連絡協議会	授業参観　グループ協議
	14		人事評価研修会	横浜での法人研修「質問する」
12	2	新規採用者研修		まとめ　グループ協議
1	16		園長セミナー	講演会：足育について
2	6，7		法人園長会（横浜）	法人経営戦略、情報交換・協議等
	12		子育て支援ネットワーク会	今年度、次年度の活動について
	13		給食部会	
	14		法人主催研修	コミュニケーション研修 メンタルヘルス研修
	18		主任保育士部会	今年度振り返り
	25		施設長部会	今年度の振り返りと次年度の活動

(2) 令和８年度に向けた検討事項

・キャリアアップ研修の計画的な履修の継続
・法人研修の有効活用とＥラーニング講座の精選
・姉妹園交流の計画的な推進

以上

令和８年６月２日

令和７年度
阿久和保育園 事業報告書

1. 事業内容
   ・保育事業
   ・一時保育事業
   ・延長保育事業
   ・地域子育て支援事業

2. 保育園をめぐる状況

令和８年度は４月から０歳児を９名受け入れし、園児数83名でスタートすることができた。年間通して乳児の入所の問い合わせや保育園見学にいらっしゃるご家庭が多く、瀬谷区には表立っては見えてこない待機児童がいるように感じる。幼児クラスも６月に４歳児１名が途中入所し、６月からは84名、７月に引っ越しで３歳児が１名退所したが８月にはすぐに３歳児１名が途中入所し84名の在園を維持することができた。どのクラスにも援助を必要とする園児が数名ずつおり、発達検査をして診断がついている園児には個別に保育者を配置せざるを得ない状況であり、瀬谷区に申請をし、加配保育士を３名配置した。また、開園７時から閉園20時まで長時間にわたって保育園で生活する園児も多く、土曜保育利用者も通年15名から20名程いることから、園児数に対して保育者の数が多くなっているのも妥当な人数だと思えた。延長保育の保育者を充足させるため超過勤務をすることも常態的になっており、実際には人手不足は否めない現状がある。家庭的に見ても支援を必要とするご家庭には細かい配慮が必要であり、瀬谷区や児童相談所、小中学校と連携し、できる限り支えになりたいと思い努めてきた。各職員も丁寧に日頃の会話、個別懇談等を行い、保育園の自己評価のための保護者アンケートの結果からも、保護者から頼っていただけるような拠り所となりつつあることも実感できるようになってきた。保育園では担いきれないと感じているところは専門機関と連携することも心がけ、園児に対してもご家庭に対しても、多方面から支援できるプラットホーム的な存在になることを目指していかれると良いと考えている。

令和７年度は第三者評価受審の年であり、約一年かけて行った。保育園の自己評価については職員で小グループを作り、グループごとに評価をした後全体でまとめをした。運営、経営面など職員にとっては難しい評価項目も多かったが、法人の規程集や保育園の運営規程等を読み解きながら理解を深めることができた。保育の面では経験者が多いことからも、改めて今の保育を見直し、問題を見つけ出すことができる良い機会となった。

また、業務改善プロジェクトも行った。広い意味で職員にとっても働きやすい職場になるように考えている職員は多くなっているように感じる。

3. 重点施策

（1）一人ひとりの子どもの人権を守る保育

年間を通して職員会や面談、日頃の会話の中で何を大切にしていくことが子どもの最善の利益になるのかということを、どの職員とも話す機会を多く持ってきた。それは主任と職員間でも行われていたように思う。阿久和保育園は長時間にわたって、又は休みなく連日保育園に滞在している園児がとても多い保育園であり、保護者の就労を支援しながらも、園児が身体的にも情緒的にも疲労感に陥らないよう保育計画を立てることを意識してきた。行事保育になりすぎず保育園で過ごす子どもの毎日が穏やかで、ありのままの自分を認めてもらいながら、やりたいことを主体的に発言したり行動できることで自信を持ったり、大人を信頼したり、友だちと過ごすことを楽しんだりできるように育ってほしいと願ってきた。阿久和保育園がどんな保育園でありたいかという思いは職員間で一方向に向き始めているように感じる。しかし、今に満足せず、いろいろな背景を抱えているどの園児にとっても、様々な援助の方法を学びながら、家庭も含めて愛情深く支えていきたいと強く感じる。

（2）保育をとことん語り合える職場風土作り

令和 7 年度は業務改善プロジェクトに取り組んだ。事務長が中心となり、小グループで話し合う中で各自が思うことを発言する場ができていたのではないかと思う。さらに問題解決に向けて意思統一ができたことは良かったと感じる。その場で問題提起されたことはできることからすぐに改善の方向に動きだし、次年度に向けて行事の見直しを検討した。また、職員間で気遣いや思いやりがもっとあると良いと感じていることが、具体的どんなことに対してなのかを共有でき、思いやりのある職員関係を作りたいということが明確に皆に伝わるきっかけになったと感じる。保育のことでは、これまでのやり方に固執するのではなく、「今求められている保育とはどんな保育なのか」、「環境や人員を鑑みて現実的に何ができるか」、「子どもを愛情深く受け止め、保育者本位ではなく子どもの人格や人権、発達段階を尊重した保育とは」、と様々なことを改めて考え、発言できる雰囲気が生まれて来つつある一年だったように思う。

（3）ICT 活用の充実

コドモンでドキメンテーションを使って各クラスのその日の活動を毎日配信できるようになった。保護者には懇談会の際に説明をし、保育のねらいに沿って子どもたちが活動している姿を瞬間的に写真で記録し、保護者の方々にも活動の意味やその時に育っている姿、子どもの育ちへの願い等を伝えられるツールとなっていると感じる。保護者の反応は好意的で、楽しみにしていると言ってくださる方が多い。欲を言えばもう少しクオリティをあげていかれると良いと感じるので、園内研修等で取り組んでいきたい。ドキュメンテーションは保育日誌の代わりにしているので、業務的に増えたわけではなく、記録と保護者満足の両面で良い効果が出ていると思う。

（4）保護者の要望に応える

昨年度の保護者の要望を受けて、実現できることは何か検討を重ね、令和 7 年度は参観日を年 2 回にし、誕生会へも参加していただき一緒にお祝いをしていただくなど園内で保育を見ていただく機会を増やしてきた。コドモンの機能でこれまで行っていなかったクラスの活動の配信も全クラス毎日配信するなど、よりオープンな保育園になるよう意識してきた。保護者からは、懇談会やアンケートを通して「先生が忙しい中保護者に目を向けてくれることはありがたい」「保護者の要望を聞き入れて、新しいことを取り入れてくれることが嬉しい」等のありがたいお言葉をいただき、励みになった。

（5）地域子育て支援の充実

園舎や園庭開放、赤ちゃんひろば、外部講師による親子体操、保育園児とのリトミク、保育園の行事への参加等様々な内容や、曜日や時間等を配慮し、参加しやすい計画を立ててきた。また、保育園見学にいらした方々もお誘いするとほとんどの方が参加してくださり、年度の後半に向かって参加者は増えていった。参加された保護者同士も仲良くなり保育園に来て楽しく過ごされており、また職員に相談してくれることも増えた。子どもの偏食で悩んでいるお母さまからの相談に対しては、保育園の給食を提供してみたところ、それをきっかけにいろいろなものを食べられるようになり、とても喜ばれた。参加者の悩みや困りごとに親身になって寄り添い、少しでも誰かが救われるような地域の子育て支援ができたら良いと思う。

4. 地域共生社会に向けた取り組み

（1） 阿久和自治会の消火設備設置は自治会の消防訓練に役立っている。また、近隣の向原公園の花壇への花の苗植えは年 2 回行った。令和 7 年度は 3 歳児も行わせていただいて良い経験となり、自分たちで植えた花で公園が明るく綺麗になっていることを喜べるような豊かな体験をさせていただいた。

（2） 横浜資源循環局瀬谷事務所の方々のご協力のもと行われたごみの分別啓発活動は、毎年の活動で定着しており、子どもたちも自らごみを分別するようになり、ごみ収集車に携わる方々への親しみや、年齢が大きくなれば感謝に気持ちも芽生え、良い社会勉強になっている。これも地域との関わりの中で根付いてきたことであり、資源循環局の方々、子どもたち双方にとっても継続してきた意味があるように思う。地域交流の親子も参加して行われた。

（3） クロネコヤマト交通安全教室はクロネコヤマト様のご厚意で行っている交通安全教室である。クロネコの新しい EV 車に乗せていただいたり、車の死角になる場所を体験しながら知ったり、楽しいだけではなく、命を守るための学びの時間となっている。担当してくださる方が長年変わらず、園児のことをよく理解してくださっていることもあり、親しみも沸いてそういった意味でも地域の繋がりを感じる。

(4) 瀬谷消防署阿久和支所の協力を得ての子ども防災教室も毎年行われている。子どもたちにとって消防士さんの存在は特別で憧れの存在でもあり、その専門家から防災について話を聞くことで命の守り方を真剣に考える機会となっている。防災ダック（煙のトンネル）を用意してくださり、実際に煙が発生した時の避難行動を体験すると緊迫感もあり、保育園ではできない体験である。命を守ることへの意識が高まるありがたい取り組みなので継続していきたい。

(5) オイスカ様、川合講師による木育ひろばは回数を重ねていくことで保護者の間でも木の良さの理解が深まり、遊びの楽しさも広がっていくと感じる。また、継続して保育園でも木育が保育の中に定着していくことが大事だと考えるので、職員の学びをさらに深めていく必要がある。購入した木のおもちゃを使っての遊びの幅や、今後どのように木育を深めていくのか職員同士でも学ぶ必要があると感じている。

(6) 「うたと音を楽しむコンサート」は、やはり生の歌声や楽器の音を体感できる良さがあると思う。保育園の中に徐々に音楽を楽しもうとする様子も見られるようになり、知らず知らずに音楽に親しみがわいてきているのだと感じている。音楽は心を豊かにすると思うので、その体験をさせていただける繋がりは大事にしていきたい。

(7) 現在保育園で行っている地域の子育て支援は定着して、来園者も多い、重点施策にあげた通りであるが、遊び場所の提供にとどまらず、相談援助についてはもっとスキルをあげて専門性を持って取り組んでいきたいと考える。

5. 施設整備及び備品等購入

実施項目	件名	金額（単位：千円）	備考（実施時期）
施設整備	外壁塗装及び 防水施工	10,780 千円	7 月～9 月
備品購入	木育玩具	326 千円	11 月
	熱中症対策テント	436 千円	6 月
	見守りカメラ	400 千円	10 月
未実施項目	件名	金額（単位：千円）	未実施の理由（背景）
施設整備	保育園の敷地内にある 2 か所の畑の土と枠の補修	200 千円	緑の協会の事業として見積もりを取りやり取りをしたが条件が合わず見送りとした。その代わり職員で畑作りをし、令和 8 年度には保育園の畑で野菜の栽培を行う予定。

6. 部門別保育年度達成状況（経過記録）

（1） 乳児保育部門

・保育所保育指針に準じて作成した保育計画をもとに保育してきた。

・0 歳児クラスは 4 月から定員を超えて 9 名を受け入れた。人数が多いと月齢にも差があり、生活のリズムも個々に違うため、限られた保育者数で個を大事にした生活リズムを保障する保育の組み立てに苦心した。一人ひとりに愛情をかけて関わることは絶対に手を抜かず、保育する中での困難なことは相談し、その都度対策とするなど職員間の連携を良くすることで何とか乗り越えてきた。1 歳児は進級と同時に不安定になる園児が多くなかなか保育園生活に馴染まない新入児もいたが、職員間で上手く役割分担をし、夏になるころには皆表情も良く遊びを楽しめるようになった。1 歳児保育室は遊びと生活の環境を作ることが難しい間取りであるため、今後も工夫をしていきたい。2 歳児は生活習慣の自立に意欲的であり、「できた！」の体験をたくさん出来た年であった。2 歳児にトイレトレーニングは付きものである。担任の間でも、子どもの気持ちを尊重して、慌てず、でもやりたい気持ちも大事にしたいと、話し合いを重ねて取り組んできた。

（2） 幼児保育部門

・保育所保育指針に準じて作成した保育計画をもとに保育してきた。

・個別支援を必要とする園児が各クラスに数名ずつおり、どのクラスも加配保育士を配置した。様々な困り感を抱えている園児は保護者との共通理解に至るまでに時間を要したが、諦めることなく個別懇談し療育や瀬谷区と相談の上対応してきた。また、瀬谷区の家庭支援担当とつながりのある家庭も多く、虐待を心配したり、養育困難な家庭の支援をしたりと、時には児童相談所とやり取りしながらきめ細やかな対応を繰り返した。登園日数が少なく欠席連絡も無い家庭には毎日電話連絡して所在確認をしたり、育児力の低いご家庭の園児は薬の投薬を園で担ったり、体重の増減の管理、衣類の洗濯等も子どものことを思えばではあるが、保育園での責任の領域を超えての支援が必要なご家庭への悩みの多い年だった。

（3） 給食部門

・安全で安心な給食提供を年間通して実施できた。

・季節を感じる献立や、地方の郷土料理、行事に合わせたメニュー等工夫を凝らした献立作成ができた。

・外国籍の園児を 2 名受け入れており、宗教上ハラール食を摂っている。あらゆる配慮が必要でありできることに限度があったため、昼食は提供不可能と判断し各自お弁当を持参していただいた。おやつは提供可能なものを選んで提供している。

・クッキングは保育士と連携して子どもたちが喜んで楽しく作ることができ良い体験となった。

・栄養士や調理員が各クラスに入り一緒に給食を食べるようにし、子どもたちの食べ具合を観察し、子どもたちからのリクエストや質問に応え、身近な存在となった。

・給食室前に栄養素の 3 色ボードを作って食材を貼ってみた。子どもたちが食材に興味を示し、料理の中に入っているものを探して話題にするようになった。子どもたちと一緒に勧められる食育となったと思う。

(4) 地域子育て支援

月齢や年齢に合わせて視線や、手指を動かすことからねんねの姿勢、お座りの姿勢、ハイハイ、歩行と段階的な遊びの提供は十分にでき、来園する子どもたちは楽しみに保育園に来てくれている。親子でのふれあい遊びも家庭でできることをピックアップしたり、みんなで一緒に絵本を見たり歌ったり踊ったりと、集団での遊びも取り入れてきた。バラエティー豊かな楽しみ方ができるよう工夫しているので時間があっという間に過ぎ、「また来ようね」という会話も聞かれるようになっている。時には父の参加もあり、気軽に来園できる場所となっていると感じる。また、あらたまってではなく、会話の中で家庭での育児の悩みを打ち明けてくれる方も多く、話を聞いてもらえる安心感も持っていただけているのではないと思う。

親子で安心して遊べる場であり、子どもを遊ばせながら母同士でおしゃべりをしてホッとでき、また相談があれば聞いてもらえるような拠り所となりたいという願いを持ちながら、在園の親子と同じように信頼関係を結びたいと思える環境を構築する。

7. 定員数・全園児数の平均・職員数 (空欄に数字を記入) (1)定員数

クラス	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
定員（人）	5	15	15	15	15	15	80

(2)全園児数の推移（実績の推移）

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均数
全園児数(人)	83	83	84	84	84	84	84	84	84	84	84	84	84

(3)職員数(令和 8 年 3 月 31 日時点) (単位：人)

職種	園長	保育士	保育補助	栄養士	調理士	事務員	看護師	合計
正職員	1	19	0	1	1	2	0	24
嘱託職員	0	1	0	0	1	0	0	2
非常勤職員	0	5	4	2	0	0	1	12
障がい者人財	0	0	0	0	0	0	0	0
シルバー人財	0	0	2	0	0	0	0	2
							合計	40

8.実施行事

(1) 実施行事一覧

月	日	名称 (実施した行事はすべて記入)	内容 (事業計画にない行事のみ記入)
4	1	入園進級式	
	10	ひよこ組クラス懇談会	
	15	りす組クラス懇談会	
	16	うさぎ組クラス懇談会	
	17	4 月生まれの誕生会	
	18	たけのこ堀り	
	18	たんぽぽ組クラス懇談会	

	22	ひまわり組クラス懇談会	
	23	さくら組クラス懇談会	
	25	避難訓練（地震、火災）	
5	1	こどもの日の会	
	14	避難訓練（地震）	
	20	幼児クラスお弁当遠足	
	22	5月生まれの誕生会	
	27	たんぽぽ組参観日	
	28	ひまわり組参観日	
	29	さくら組参観日	
6	4	避難訓練（火災）	
	5	歯科検診	
	7	木育ひろば	
	11	内科健診	
	6	さくら組「らんらんデー」	地域のほうゆう保育園と年長組が交流した
	16	西部療育センターによる巡回相談	支援が必要な園児の保育園での様子を観察していただき保育のアドバイスをいただいた。
	18	防犯訓練	
	19	6月生まれの誕生会	
	24	ひよこ組保育参観日	
		りす組保育参観日	
		うさぎ組保育参観日	
7	1	避難訓練（火災） 及びキッズ防災教室	瀬谷消防署阿久和支部より消防士さんに来園していただき避難訓練を見ていただいて指導を受けたり様々な災害時の避難行動について園児が学んだ。
	3	防犯訓練	保育園の隣の公園側のフェンスをよじ登って不審者が園内に侵入した想定で行った。
	4	横浜市重大事故防止巡回	重大事事故抑止のため横浜市より保育園の視察と言うことで巡回に来られた。
	7	七夕会	
	24	7月生まれの誕生会	
8	6	避難訓練（プール活動中の地震）	
	21	8月生まれの誕生会	
	27	夏祭り（乳児、阿久和キッズ）	瀬谷区の社協から、綿あめ機、かき氷機をお借りし今までにないお祭りを楽しんだ。
	28	夏祭り（幼児）	
	29	夏祭り（地域）	
9	1	消防署立ち合い避難訓練 （地震、火災） 保護者参加の引き渡し訓練	
	19	瀬谷警察署立ち合い防犯訓練 （不審者侵入）	瀬谷警察署の協力を得て犯人役をお願いし、防犯訓練を行った。
10	19	運動会（幼児クラス）	
	23	年長児原小学校との交流	原小学校5年生と交流し、校内を案内してもらったり学校授業や生活を紹介してもらった。
	23	10月生まれの誕生会	
	31	ハロウィン	
	月間	避難訓練（散歩中に地震）	
11	5	避難訓練（午睡明けに火災）	

	6	歯科検診、歯科指導	
	12	たんぽぽ組バス遠足	ズーラシア
	13	ひまわり組バス遠足	ズーラシア
	14	さくら組バス遠足	ズーラシア
	15	乳児クラス参観日	
	17	クロネコヤマト様による 交通安全教室	
	19	内科健診	
	20	11 月生まれの誕生会	
	21	さつまいも掘り	地域、阿久和キッズ、幼児
12	2	避難訓練（地震、停電）	
	3	「うたと音を楽しむコンサート」	
	4	第三者評価訪問日	
	5	第三者評価訪問日	
	10	12 月生まれの誕生会	
	20	発表会	幼児クラス
	24	クリスマス会	
1	7	避難訓練（近隣火災）	
	9	子ども新年会	
	16	西部療育センターによる巡回	支援が必要な園児の保育園での様子を観察していただき保育のアドバイスをいただいた。
	22	1 月生まれの誕生会	
	30	瀬谷区合同育児講座 「おやこでぎゅっと」	地域ケアプラザにおいて、瀬谷区の担当、原保育園と協力し地域の親子に集まっていただき、遊びを提供した。日頃阿久和保育園の地域交流に来られている方々が多く参加してくださり好評だった。
2	3	節分	
	5	避難訓練 （18：10 延長保育中に地震発）	
	9	ひよこ組クラス懇談会	
	10	りす組クラス懇談会	
	13	うさぎ組クラス懇談会	
	16	たんぽぽ組クラス懇談会	
	17	ひまわり組クラス懇談会	
	18	さくら組クラス懇談会	
	19	2 月生まれの誕生会	
	25	横浜資源循環局による 「3R 夢」	横浜資源循環局の方々のご協力により、園児にごみの分別について知ることや、ごみ収集車の見学、着ぐるみの「イーヨくん」とのふれ合い等企画していただき行った。地域の親子、阿久和キッズも参加。
	26	年長組 原小学校 1 年生と交流	原小学校の 1 年生が様々な体験を企画沿てくれて小学校入学に向けて楽しみや期待が膨らむ機会となった。ランドセルの扱い方、校内の見学等を体験した。
	28	令和 8 年度入園説明会	一次申し込みで決定された新入園児の入園説明会として、重要事項説明書の説明をし、園児の様子の聞き取り、入園にあたっての持ち物の説明などを行った。

3	3	ひな祭り会	各クラスで年齢に合った内容で行った。
	11	幼児クラスお別れ遠足	おやつを持って出かけた。
	13	3月生まれの誕生会	
	21	卒園式	
	24	さくら組お別れ遠足	江ノ島水族館
	26	お別れ会	
	予告なし	ブラインド避難訓練	職員にも園児にも予告せず訓練を行った。

(2) 令和8年度に向けた検討事項

・木育については2年目となるのでさらに深めていかれるよう園内で研修をしたり、オイスカ様へ質問を投げかけたりして積極的に取り組んでいく。また、各年齢で保育計画の中に木育の項目を入れ、意識的に保育の中に取り入れるなどしていきたい。

・運動会や発表会は見せるための形の良さにこだわるのではなく、子どもたちのやる気や発想、発達段階や、そのクラスらしさを大事にして、その日だけのイベントではなく、一年間の保育の流れの中で多くの体験を積み重ねた姿を見ていただく日にしたいと考える。このことについては職員間で意見は一致している。保護者の中には運動会や発表会へのイメージがあり、その差異への説明を丁寧にし、子どもたちが主体となって作り上げる素晴らしさや、今の時期にその力を育むことの意味、大切さを伝え、共に喜び合える機会にしていく必要があると考える。

・木育ひろば、うたと音を楽しむコンサート、移動動物園等は姉妹園や近隣の保育園や地域の子育て支援事業所、阿久和保育園で地域交流をしているご家族を巻き込んで、地域の方々も楽しんでいただきながら地域共生の一端となるよう計画していきたい。

9. 研修報告

(1) 研修報告一覧

月	日	研修名（受講した研修はすべて記入）		研修内容（事業計画にない研修のみ記入）
		処遇改善Ⅱ対象の研修	左記以外の研修名	
4	19		木育研修	オイスカ様、川合講師に木育を学んだ。
	21		幼保小接続期研修	小学校への円滑な接続を大切にした新入学当初のスタートカリキュラムを「子どもは自ら学ぶ意欲と力を持った有能な学び手である」と捉え、脂質、能力を意識し安心して挑戦の循環を通してのウェルビーイングを保障することを学んだ。
5	16		法人研修 コミュニケーション研修 （導入編）	
	23		法人研修 人事評価研修	
	20		「はじめの100か月の育ちのビジョン」	保育のデザイン研究所主催 大豆生田先生による講演会。保育のみならず地域の子育て支援や自治体等子全ての子どもに関わる場で「私に実践できることは何か」という当事者意識を持つことを学んだ。

	27		法人研修 ティーチングとコーチング研修	
	29		瀬谷区幼保小ブロック研修会	幼保小で連携しスタートカリキュラムに沿った保育・教育を実践するための研修会。
	30		法人研修 コミュニケーション研修（発展編）	
6	12		法人研修 現場の問題発見と課題解決	
	19		瀬谷区幼保小交流事業事 健やか子育て講演会	大豆生田先生による講演会 「初めの 100 か月の育ちのビジョン」とこれからの時代のほいく・教育について学んだ。
	17		園内研修　嘔吐処理研修	嘔吐処理、食器消毒について
	30		園内研修　AED 心肺蘇生法	AED の操作窒息時等の心肺蘇生法の手順を覚え実習した。
7	2		園内研修　AED 心肺蘇生法	AED の操作窒息時等の心肺蘇生法の手順を覚え実習した。
	3		法人研修 メンタルヘルス研修 「支援職として働く私たちのセルフケア」	研修資料を基にストレスケアを学んだ。身体的ケア、心理的ケア、 関係的ケアを知り、「気づく」「その場でケアする方法」「発散」等についてグループワークをしながら仕事やプライベートでも活かせることを学んだ。
	4		園内研修　AED 心肺蘇生法	AED の操作窒息時等の心肺蘇生法の手順を覚え実習した。
	5		法人研修 「愛着を育む子どもの見かた」	
	14		原小学校公開授業参観	瀬谷区幼保小交流事業として、先の公開保育との２本立てで小学校の授業を参観させていただき、１年生の授業や生活の様子見た後、教諭や校長先生のお話しをお聞きした。また、参加者で意見交換も実施した。原小学校では「主体的な学び」をテーマにし、取り組んでいるとのことで、先生も声掛け、投げ掛けの仕方に子どもの主体性を意識しているところが随所に見られ、保育園での保育を考えさせられたように思う。
	19		法人研修 「愛着を育む子どもの見かた」	
8	26		法人研修 ティーチングとコーチング研修	
9	7		「今７改めてアタッチメントの大切さを考える」	保育 Sow ラボシンポジウム 遠藤俊彦先生、井桁容子先生を講師に「はじ

				めの 100 か月の育ちのビジョンの中でのアタッチメントの役割を学んだ。
	11		瀬谷区保育実践研修 「木の造形ブロックウを使ってあそぼう」	カプラ魅力を知り、発達段階に応じた遊び方を習った。参加者でグループを作り協力して大作を作り、園児の気持ちになって共同で作り上げる楽しさを体験した。
10	1		食品衛生責任者実務講習会	食中毒防止、異物混入対策、食物アレルギー対策等の衛生管理管理について学んだ。
	1		園内研修 インクルーシブ保育研修	オンラインにて若月芳浩先生の講演を聞き多様な子ども同士が育ち合おう環境を皆で学んだ。
	2		瀬谷区 保育・教育施設長研修会 「保育教育施設内のマネジメントと人材育成～施設長の役割を考える」	株式会社フォーサイツコンサルティング代表取締役社長　浅野　陸先生による講演会。 保育所に求められるコンプライアンスを基盤においた組織作りやリスクマネジメントや危機管理、災害対策等について学んだ。
	7		公開保育	幼保小交流事業として、瀬谷区二ツ橋保育園にて 4 歳児保育を見させていただいた。見学の後、公開園の先生、参加者と気づきや意見交換をさせていただき自園の保育に取り入れられることを学んだ。
	9		公開保育	幼保小交流事業として、GENKIDS 保育園にて 2 歳児保育を見させていただいた。見学の後、公開園の先生、参加者と気づきや意見交換をさせていただき自園の保育に取り入れられることを学んだ。
	10		「子育て支援研修」	地域の子育て家庭の現状を必要な支援を保育園でどう行っていくかを学んだ。
	27	幼児教育		10 月 27 日～12 月 22 日まで オンライン
	27	乳児保育		10 月 27 日～12 月 22 日まで オンライン
	27	保護者支援 ・子育て支援		10 月 27 日～12 月 22 日まで オンライン
	27	食育・アレルギー対応		10 月 27 日～12 月 22 日まで オンライン
11	6		公開保育	幼保小交流事業として、瀬谷第二保育園にて４歳児保育を見させていただいた。見学の後、公開園の先生、参加者と気づきや意見交換をさせていただき自園の保育に取り入れられることを学んだ。
	21		嘔吐処理研修	園内で嘔吐があった場合の役割分担や処理の手順
	26	障害児保育		12 月 22 日までオンライン
	28		小児食物アレルギー研修会	小児食物アレルギーの基礎知識と緊急対応を学ぶとして、アレルギーの仕組み、症状とアレルギーによる栄養障害等を踏まえたうえで食事提供の工夫や注意点について研修した。

12	3	障害児保育		12 月 22 日までオンライン
	5		公開保育	幼保小交流事業として、中屋敷保育園にて 3 歳児の公開保育を見させていただいた。見学の後、公開園の先生、参加者と気づきや意見交換をさせていただき自園の保育に取り入れられることを学んだ。
	8		嘔吐処理研修	園内で嘔吐があった場合の役割分担や処理の手順
	9		法人研修 現場課題の発見と解決	
	12		公開保育	幼保小交流事業として、鳩の森愛の詩瀬谷保育園にて全学年の公開保育を見させていただいた。見学の後、公開園の先生、参加者と気づきや意見交換をさせていただき自園の保育に取り入れられることを学んだ。
	27	乳児保育		
	24		宗教食について	横浜市保育福祉部会給食研究会主催の宗教食研修を受講。自園にハラール食の園児が２名在籍しており、宗教食の理解を深め、保育園での給食提供のための工夫を学んだ。
	27	乳児保育		
2	4	乳児保育		
	6	乳児保育		
3	16		園内研修　嘔吐処理	園内で嘔吐があった場合の役割分担や処理の手順
	25		園内研修 AED 心肺蘇生法	AED の操作窒息時等の心肺蘇生法の手順を覚え実習した。

(2) 令和 8 年度に向けた検討事項

・キャリアアップ研修は抽選で受講できるものも多く、思うように受けられないが、できるだけ多く受講できるようにしていく。

・法人研修に保育の内容も多く入れていただいたのはとても貴重でありがたいと思う。勤務の状況から参加が厳しい面もあるが、せっかくの機会であるので多くの職員に学んでもらい、保育実践してほしい。大豆生田先生の研修は往還型なので各学年満遍なく職員に参加してもらう予定。学んだことを園に持ち帰り、職員同士でも意見交換しながら実践し、子どもの見取り方を振り返り、保育技術の向上に向けてスキルアップできると良いと思うのと同時に、職員もワクワクした気持ちで保育を楽しんでほしいと願っている。

以上

令和８年６月２日

令和７年度
西柴保育園 事業報告書

1. 事業内容
・保育事業　・時保育事業　・延長保育事業　・地域子育て支援事業

2. 保育園をめぐる状況
・乳児保育・幼児保育共にこども達ひとり一人の発達を十分理解しようという心持で、日常の保育の小さな積み重ねを重視し広い視野で見立て、育ちをチームで応援していこうという姿勢でこども達が安心して過ごし思いっきり活動ができる場所である努力を続けている。
・日常の活動の意図が伝わるよう日々の活動の様子をドキュメンテーションやインスタ等を通じ保護者や地域向けに配信し、園が地域の身近な存在であるような仕掛けを展開している。
・地域の社会福祉法人としての存在し続ける事が出来る様、地域の多様世代の方々との参加型の交流や、地域での園の役割を時代に応じて探し続けている。
今後も、園が西柴に存在し続けることが出来るような地域共生を視野に入れ取り組みを開始している。

3. 重点施策
(1)個々の専門性を高める
職員１人１人が、個々の興味関心に応じて、楽しみながら意欲的に学ぼうとする姿勢が見られるようになってきている。法人の研修、外部研修への積極的な参加や、個々の目標成果シートへの記載内容からもその様子が読み取れる。

(2)子育てパートナーとしての園の役割
地域に向けて、保育者の専門性提供し、毎月の子育て広場や、木育ひろばといった地域の子育て世代の方向けのイベント開催。
マメなインスタの配信を通じて地域の子育て世代へ様々な情報を発信する事が定着してきている。

(3)愛着関係・自己肯定感あそびを支える
愛着関係や自己肯定感を育む重要な時期にこども達に関わっていることを意識し日常の小さな保育を丁寧に積み重ね、特に０，１，２歳児クラスの担当者のあたたかな関わり、言葉、雰囲気、視線が更に、こども達のこころからだの育ち支え後押ししている。

(4)ノンコンタクトタイムの充実と保育ウエイブの活用

西柴の保育者集団が目指すチーム保育を実践していく上ではノンコンタクトタイムを確保することが、最重要課題であることは、職員みなが感じているところである。ノンコンタクトタイムを確保する為に、それぞれの意識や、作業能力の向上等個々の課題、チームとしての課題について、次年度も継続して取り組んで行く。保育ウエイブについては、現場での活用が着実に定着しつつある。

(5)生き残る園を目指す事への努力と工夫

基本であるこども達の人権を守り、こども達ひとり一人のこころを大切に、西柴保育園の大切にしている木育や、リトミック、造形活動などの、特色ある保育を丁寧に実践し続けるとともに、大切に取り組んでいる実践を地域にもマメに発信している。職員もこども達とともに保育を楽しみ、明るくあたたかい園である努力を続けている。

4．地域共生社会に向けた取り組み

(1) 産褥期ケア

今年度は、区内の既に取り組みを行っている施設の、情報収集などをおこなってきた、今後は実際に稼働している施設なども見学してみたいと考えている。
保健師さんなどのより専門的な方のアドバイスもうかがいながら、出産直後の孤独な子育てをしている方の拠り所として、地域に関わることができるか？模索中である。

(2) 障がい者雇用

支援校等の学生さんの職場体験や、見学等も、今年度次年度と、実習生の受け入れも実施している。
しかしながら、保育施設の構造上、障がい者の方が 1 人で休憩を取れ横になれるスペースの確保が現在のところ難しく採用には至っていない。
引き続き、障がい者の方の雇用については門徒を開き、採用に繋がるよう対応している。

5．施設整備及び備品等購入

実施項目	件名	金額（単位：千円）	備考（実施時期）
施設整備	ｴﾝﾄﾗﾝｽ屋根設置工事	2,035 千円	
	園庭電子錠	487 千円	電子錠ではなく門扉交換と錠で対応
備品購入	園庭用遊具・玩具	115 千円	
	木育 2 歳児クラス用ﾊﾟｰﾃｰｼｮﾝ	220 千円	

６．部門別保育年度達成状況（経過記録）

【保育】

・0 歳児：一人ひとりの発達の保障の面で、食事の提供の仕方（後期食➡完了食への移行時期）をそのタイミングで判断する事が難しいと感じた。

・1 歳児：環境の変化などに敏感な児がいる事を知りアタッチメントの大切さを改めて感じた。

：自我が芽生えてきたり、年齢は同じでも個々に合わせた関わりや、言葉掛けなどのこの年齢の個々への配慮の幅を改めて実感した。

：こどもの興味に目を向ける事を心がけ、設定、動線について保育環境を考える事に苦慮した。

・2 歳児：様々な物に興味を示す姿、「やってみたい」「これなに？」などの発信が多くあった。こども達の思いをどの様にすれば更なる発展へと繋げる事が出来るのかを考え、遊びの中に取り入れようとしたことで、こども達からも「こうしてみたい！」「これ作りたい！！」などの声が出てくるようになった。

：部屋に写真等を掲示して目に留まると、興味関心の意識の高まりを感じた。

・3 歳児：生活や遊びの中で少しずつ考える場面を経験する中で、我慢やルール簡単な約束やルールがある事とに気づき少しづつ守ろうとする姿があった。

・4 歳児：ひとり一人のびのびと過ごせている。自分のやりたいことが分かり、意欲的に取り組む姿が見られる。

：友だちが困っていると手をさしのべたり、思いやりの気持ちが育ってきている。

：当番などの役割意欲は育っているが、規律意識や他者の話を聞くという事には課題がある。

・5 歳児：仲間と様々な活動を経験する中で友だちの思いや意思を大切にしながら関わろうとする姿が増えてきた。

：友だちの得意、苦手な事に気づき自分たちで考えながら協力する姿もみられた

【調理部門】　：なかよし給食の実施

：食育年間計画の共有

：アレルギー対応についての情報共有

：保護者向け食育情報提供（献立表・食育だより・写真掲示・ブログ）

：地域への食育情報の発信

：郷土料理献立の提供・各地の情報提供

：各年齢に応じた食育活動の計画、実施、仲間と楽しく食べるためのマナーやルールを知る。

【地域交流部門】　：町内会公園愛護会の方々との公園清掃、花壇の整備、焼き芋の会、
西柴夕涼み会（町内会のおまつり）
：地域の保育園との交流（年長児スポーツフェスティバル参加、
5 歳児キラキラフェスティバル参加）
：西柴小学校との幼保小連携推進事業としての連携
：小学校給食体験
：小学校運動会見学・学校体験（ランドセル・教科書・図書室
：金沢区行政主催のイベント「いきいきフェスタ」への参加
【子育て支援部門】：育児講座（年４～６回、園栄養士による食の相談・離乳食のお教室
：手作りおもちゃのワークショップ・リトミック・はぴママヨガ等）
：地域の未就園児との交流の充実（園庭開放、交流保育）
【一時保育部門】　：受け入れ定員に空きがある場合の一時保育児の受け入れを常時おこ
なった施設内有用定員 72 名に達した時点で受け入れをストップした。

７．定員数・全園児数の平均・職員数

⑴定員数

クラス	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
利用定員(人)	6	13	13	13	14	13	72

⑵全園児数の推移（実績の推移）

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均数
全園児数(人)	67	67	67	68	68	69	69	69	69	71	71	71	68

⑶職員数(令和 8 年 3 月 31 日時点)　　(単位：人)

職種	園長	保育士	保育補助	栄養士	調理士	事務員	看護師	合計
正職員	1	14	0	1	1	1	0	18
嘱託職員	0	0	0	0	0	0	0	0
非常勤職員	0	3	1	0	2	0	1	7
障がい者人財	0	0	0	0	0	0	0	0
シルバー人財	0	0	0	0	0	0	0	0
							合計	25

８．実施行事

⑴ 実施行事一覧

月	日	名称 （実施した行事はすべて記入）	内容 （事業計画にない行事のみ記入）
4	1	入園・進級を祝う会	入園式新入園児と保護者/進級式新入園児　それぞれを祝う会
	22	誕生会	誕生月の児と保護者を園にお迎えしてお祝いする
5	1	こどもの日の会	こいのぼりを飾りこどもの成長を祝う
	17	尿検査	３，４，５歳児の尿検査
	14-21	懇談会	保護者懇談会 14 日 5 歳児、15 日 4 歳児、16 日 3 歳

			児、19 日 2 歳児､20 日 1 歳児､21 日 0 歳児
	27	誕生会	誕生月の児と保護者を園にお迎えしてお祝いする
	27	春の健康診断	園医による定期健康診断
6	10	0 歳児親子ふれあい遊び	運動会に代わる乳児クラスの親子レク
	11	1 歳児親子ふれあい遊び	運動会に代わる乳児クラスの親子レク
	12	2 歳児親子ふれあい遊び	運動会に代わる乳児クラスの親子レク
	13	歯科検診	歯科医師による全園児歯科検診第 1 回目
	17,18,25	小学校交流	西柴小学校の 2 年生と年長児の交流会
	21	木育ひろばの会	在園児、地域の方に向けて木を通じた活動
	23	大型絵画プロジェクト	浅葉弾さんによる金沢芸術祭作品づくり参加
	24	誕生会	誕生月の児と保護者を園にお迎えしてお祝いする
	16-27	個人面談週間	ご希望の家庭のみ担任による個人面談
7	7	七夕の会	七夕の由来を知り、飾りつけを楽しむ
	18	すいかわり	地域のひろばで目隠しをしてすいか割りを楽しむ
	26	西柴地区地域の盆踊り	保護者が引率しての地域の盆踊りに西柴保育園も参加
	29	誕生会	誕生月の児と保護者を園にお迎えしてお祝いする
8	1	おまつりごっこ	園内全体での夏祭り、園児がお店屋さんになったり買い物を楽しんだりする。
	26	誕生会	誕生月の児と保護者を園にお迎えしてお祝いする
9	1	防災訓練	防災の日大規模災害を想定しての引き取り訓練
	30	誕生会	誕生月の児と保護者を園にお迎えしてお祝いする
10	1	おだんごづくり	幼児クラスと調理担当者でおだんごを作る
	18	幼児クラス運動会	幼児クラスのみ地域のｸﾞﾗｳﾝﾄﾞを使用しての運動会
	28	誕生会	誕生月の児と保護者を園にお迎えしてお祝いする
	21	秋の健康診断	園医による定期健康診断
	25	誕生会	誕生月の児と保護者を園にお迎えしてお祝いする
12	6	おたのしみ会	全クラス参加・保護者をお迎えし入れ替え制の会
	11	ハッピーデーコンサート	地域のハーモニカ愛好会の老人の方々との交流会
	16	誕生会	誕生月の児と保護者を園にお迎えしてお祝いする
	25	クリスマス会	サンタクロースを迎えて全園児でクリスマスを楽しむ
1	9	お正月あそびの会	在園児の祖父母を招いてお正月あそびを楽しむ
	27	誕生会	誕生月の児と保護者を園にお迎えしてお祝いする
	19-30	個人面談週間	個人面談を希望するご家庭との個人面談
	23	視聴覚検査 3 歳児	3 歳児のみの視聴覚検査
2	3	節分の会	豆まきをして福と春をお迎えする
	17	誕生会	誕生月の児と保護者を園にお迎えしてお祝いする
	18-20	幼児クラス懇談会	3 歳児、4 歳児、5 歳児クラスの保護者との懇談会
	25-17	作品展	地域の広場を使ってのこども達の作品展
3	3	ひな祭りの会	ひな祭りの由来を知り成長と春を祝う
	2-4	乳児クラス懇談会	3 歳児、4 歳児、5 歳児
	10	誕生会	誕生月の児と保護者を園にお迎えしてお祝いする
	14	卒園式	R7 年度　卒園式
	17	おべんとう遠足	1 歳~4 歳児、園内で給食室お手製のお弁当を食べる。
	18	お別れ遠足	卒園児のみ「こども科学館へ」
	24	お別れ会	全園児と職員でのお別れ会

(2) 令和 8 年度に向けた検討事項

・季節の伝統行事を身近に感じられる行事の継続

・地域の幅広い年齢層の方々（未就学児・妊婦さん・地域の高齢者の方々他）とも、これからの地域共生社会に向けて保育園が地域のかたがたとの関係をつなぐきっかけとなる様な機会をこども達の負担にならない範囲で展開していきたい。（移動どうぶつ園・なかよし day など）

9. 研修報告

(1) 研修報告一覧

月	日	研修名		研修内容 (事業計画にない研修のみ記入)
		処遇改善Ⅱ対象の研修	左記以外の研修名	
4	10	食育・ｱﾚﾙｷﾞｰ		キャリアアップ
	19		木育と保育事前勉強会	
5	1	保健衛生・安全対策		キャリアアップ
	16		新任保育士研修	私立園園長会主催動画配信
	23		カウンセリング研修	横浜市主催子どもの心研修
	23		人事評価研修会	
	27		ティーチングコーチング研修	
	16,30		コミュニケーション研修会	
6	13		子どもの人権研修	横浜市保育力向上
	12		現場課題の発見と解決	
	23		保育を語ろう	横浜市保育力向上
	21		木育ひろば	
7	1	保育実践		キャリアアップ
	2		発達支援研修	南部療育
	3		メンタルヘルス研修	
	4		幼保小	横浜市主催連携研修
	5,19		これから求められる保育者の専門性	
	24		幼保小	横浜市主催連携研修
	22		教育宣言研修	横浜市主催
8	22		人事評価研修	
	26		ティーチングコーチング研修	
9	2	食育・ｱﾚﾙｷﾞｰ		キャリアアップ
	5		給食栄養研修会	
	11		現場課題の発見と解決	
	25		自閉症スペクトラム	横浜市自閉症スペックトラムの理解
10	1	障害児保育		キャリアアップ
	1		インクルージブ保育	ポピンズ
	2		乳児保育の理解	横浜市乳児保健研修
	23		口腔研修	横浜市口腔機能育成研修
	27	幼児保育		キャリアアップ
	22	障害児		キャリアアップ
	30		幼保小	接続期研修
11	6		運動機能障害	横浜市運動機能障害
	7		コミュニケーション研修	
	14		人事評価研修	
	18		自己評価ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ	保育所に於ける自己評価ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ研修
	20		幼保小	接続期研修
12	15		幼保小	要録研修
1	20		乳幼児におけるｱﾀｯﾁﾒﾝﾄ	ｱﾀｯﾁﾒﾝﾄの重要性
	9		幼保小発表会	グループ研究発表会
	27	子育て支援		キャリアアップ
	27	幼児保育		キャリアアップ
2	2		栄養管理研修	金沢区給食施設における災害時栄養
	12		小児救急法研修	金沢区こどもの事故を未然に防ぐ
	24		虐待の防止研修	保育士による児童に対する虐待
	24		ハラール食	宗教食について

(2) 令和８年度に向けた検討事項

・保育の環境設定とこどもたちの発達の関係性について保育環境実践研修への参加。
・キャリアアップ研修対象者の継続的参加。
・ソーシャルワーク的視点から自園が地域に貢献していくきっかけづくりに繋がる分野での研修参加。
・各職員の専門性を高めるための研修への参加　　以上

令和８年６月２日

令和７年度
上永谷西保育園 事業報告書

1. 事業内容

・保育事業　・一時預かり事業　・延長保育事業　・地域子育て支援事業

2. 保育園をめぐる状況

職員配置は十分ではなかったものの、職員間で協力し日々の保育は問題なく運営できたと感じる。ノンコンタクトタイムや自学自習の時間の確保が出来なかった事が課題である。活動内容によっては配置が厳しく保育の内容を変更せざる得ない事もあったが、職員が臨機応変に対応し、安定した保育が提供できた。現状を理解し協力して対応してくれた職員には感謝の気持ちしかない。昨年度の取り組みとしてスタートした小規模保育園との連携や写真を活用した保護者への保育の様子の配信、また障がい者の雇用も始まったが、職員が常に協力し合うという意識があった事が運営に支障がなかった要因ともいえる。インクルーシブ保育を理解し、「子ども主体」を前提に保育は行われているが、支援の必要な子どもも自然に参加できる保育を基に、行事の内容を見直した。また、近年の異常気象による温暖化に伴い、運動会を「子どもも保護者も一緒に体を動かして楽しめる会」として時期や内容を変えて実施する予定である。

同時に発表会や卒園式なども、行事本来の目的を踏まえ見直すタイミングと感じる。

3. 重点施策

(1) 職員間の信頼関係の構築

業務は日々助け合いながら、お互いにフォローし安全安心の保育が提供できた。

職員同士のコミュニケーションが常に重要だが、保育中の限られた時間の中で互いが同じ方向を向き、相手を受け入れる事が時に難しい事もあった。職員に各々に自己分析を兼ねた振り返りアンケートを行い、保育は勿論、自身の長所や課題、職員との関りなど、自己と向き合う機会を持った。

振り返りを基に、改めて課題に対しての意識や努力の継続の確認も併せて行っている。個々の感情の落とし込み方を意識していくことで相手を受け入れ、個性を理解し、自身の思考のコントロールが速やかに出来るようになることが引き続き課題ではある。

次年度も園内研修など、より良い関係性が築ける内容を設定していく。

(2) 職員の育成、スキルアップ

法人研修への参加希望も多く、職員が学びへの意識が高まっていると感じる。個々でも積極的に研修に参加し、実際に生かしている様子が見られる。職員の層が厚く、乳児クラスでは愛着関係を大切にした穏やかな保育を提供し、幼児クラスでは子どもが自ら興味を持ち参加したくなるよう子ども達の意見を尊重し、子どもの自主性を育み、自己肯定感が高まる保育を計画している。

(3) 保育園の役割と今後のビジョン

木育の開始にあたり、木育の理解、木がもたらす効果を理解し、子育て支援、子どもの自己肯定感が高まる支援を行う準備をしてきた。今までの保育から、職員の意識としてないものが自然と導入できたと感じる。園での導入を起点に家庭でもより良い親子関係を築くきっかけとなり、園では職員も楽しみながらわくわくする保育を提供していけると感じている。

また、日常の保育や行事では、子どもが主体の分け隔てのない自然に参加できる保育、インクルーシブ保育を基にクラス会議やリーダー会議にて具体案を出し合ってきた。それぞれの職員が子どもを中心に意見を考え出し合う姿に、意識は高いと常に感じる。次年度の保育所保育指針改定に伴い、今後も大事な指針として「はじめの100か月育ちビジョン」にも注視していきたい。

4. 地域共生社会に向けた取り組み

(1)障がい者雇用

今年度より正式に雇用となる。

窓口となる職員を決め、業務内容を確認しながら、消毒や清掃、軽作業などスムーズに対応している。定期的に面談を行い、業務での課題や職員とのコミュニケーションなど聞き取り、毎日業務に励み、安定して勤務が出来ていると感じる。

(2)養護学校学生職業体験受け入れ

学生の特性など理解した上で、環境整備や軽作業などの様々な体験と共に社会の大人と関わる経験のお手伝いをさせていただいた。

5. 施設整備及び備品等購入

実施項目	件名	金額（単位：千円）	備考（実施時期）
施設整備	エアコンクリーニング	150千円	令和7年8月
備品購入	遮光用タープ2基	192千円（96千円）	令和8年3月
備品購入	木育玩具	175千円	令和7年8月
未実施項目	件名	金額（単位：千円）	未実施の理由（背景）
施設整備	特になし		
備品購入	特になし		

6. 部門別保育年度達成状況（経過記録）

(1) 乳児保育部門

0歳児：

・個々の生理的欲求が満たされ、安定した生活の中で快適に生活できるよう、愛着関係を築き、一人ひとりの発達を理解し、個々に応じた保育を行った。

・衛生的で安全な環境の中で、個々の生活リズムを大切に過ごす事が出来た。

1 歳児：

・様々な経験や探索活動の中から言葉を獲得できるような関りや、安心できる保育者との関係の下で、自分でしようとする気持ちが育めるような関りを持つことを意識した。

・生活リズムが安定し、食事・排泄・着替えなど基本的生活習慣の自立への一歩を見守り、一人ひとりに合った対応を行った。

2 歳児：

・安全に注意しながら、友達との関りを大切にすると共に、自分で出来る事を増やしていけるような保育を行った。また、様々な遊びや体験を通して、自然に親しみ、好奇心や興味を持てるよう保育を計画した。

・一人ひとりが主体として受け止められているという安定感を得られる環境の中で、自分を肯定する気持ちが育まれるように関わった。

(2) 幼児保育部門

3 歳児：

・安定した生活の中で身の回りの事に興味関心を持ち自分でやってみようとする意欲を高める関りを意識し保育を行った。

・四季を通して目的を持って散歩に出かけ、自然に触れ、草花や小動物に関心を持つことで草木や昆虫の命にも気付き大切に思う気持ちを育むことができた。
また、一人一人が身近な大人に自分の気持ちを表し安定して過ごすことができた。

4 歳児：

・基本的な生活習慣が身に付き、意欲的に活動に参加し、相手の思いに気付けるよう、また自分の思いを言葉で伝えながら関わりを深められるように見守った。自分の思いが強く難しい事も多いが、保育士が仲立ちをしながら温かい心を育めるように引き続き関わっていく。

・活動のイメージを膨らませ、意欲的に見通しを持って取り組めるよう、子どもの意見を基に組み立て、環境を整える事を日々行うことができた。

5 歳児：

・友達と協力して目標に向かって取り組み、やり遂げる達成感や充実感を味わい、意欲的にチャレンジする気持ちを育むことができた。

・基本的生活習慣が身に付き見通しを持って活動に参加することで、就学に向けて、自己管理を行えるようになった。

・自分の強い意思がある中でも相手の気持ちに気付き、互いに思いを伝えながら解決することも出来るようになった。

(3) 給食部門

・離乳食の取り組みを丁寧に行い、個々に合った対応を保護者と連携して行った。

・栄養士間の連携の下、給食衛生管理マニュアルに基づいた対応を行い、給食提供時間の厳守、献立内容の工夫の実施を行った。

・食物アレルギー対応の実施

・食育活動を計画、実施し、経験することで子どもの感性を育む。

・給食レシピを作成しご家庭でも園の給食を手軽に楽しめるような取り組みを行った。

(4) その他の部門

【支援児（障害児）支援】

・愛されている心地良さを感じられるよう、個々に応じた対応を丁寧に行い、情緒の安定を図った。友達との関わりの中での成長を見逃すことなく、保護者と共感し協力し合う関係性を築いた。

【地域子育て支援】

・一時保育の受け入れの定着化を目指し子育て支援を行う。

・地域の親子がゆっくり憩える相談しやすい環境を作り、参加者の定着化を目指す。

【地域交流】

・幼保小交流をはじめ、就学に向け架け橋となるよう近隣の小学校と継続的に複数回交流を行ったことで、就学に向けての不安が子どものみならず保護者も軽減されたように感じる。

7. 定員数・全園児数の平均・職員数

(1)定員数

クラス	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
利用定員(人)	2	15	15	16	16	16	83

(2)全園児数の推移（実績の推移）

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均数
全園児数(人)	83	83	83	83	83	83	83	83	83	83	83	83	83

(3)職員数(令和 8 年 3 月 31 日時点)　　(単位：人)

職種	園長	保育士	保育補助	栄養士	調理士	事務員	看護師	合計
正職員	1	16	0	3	0	1	1	22
嘱託職員	0	1	0	0	0	0	0	1
非常勤職員	0	6	2	1	0	0	0	9
障がい者人財	0	0	1	0	0	0	0	1
シルバー人財	0	0	0	0	0	0	0	0
							合計	33

8. 実施行事

(1) 実施行事一覧

月	日	名称 実施した行事はすべて記入)	内容 (事業計画にない行事のみ記入)
4	1	入園・進級の日	
	23	懇談会（５歳）	
	24	懇談会（４歳）	
	25	懇談会（３歳）	
5	13	バス散歩（５歳）	防災センターで起震車体験や防災など学ぶ
	15	バス散歩（４歳）	港南台北公園ログハウス
	16	バス散歩（３歳）	日野中央公園
	16	年長交流	

	20	懇談会（２歳）	
	21	懇談会（１歳）	
	28	クッキング（５歳）	じゃが芋を調理、焼いて試食する
6	2	年長交流	
		園児歯科検診	
	9	水遊び・プール開き	
	11	園児健康診断	
	11	クッキング（３歳）	収穫したさつま芋でスイートポテト作り
	18	横浜市交通安全指導	
7	2	クッキング（４歳）	焼きとうもろこしクッキング
	7	七夕	
	15	クッキング（３歳）	
	24	ヨコハマ３Ｒ出前講座	横浜環境事業局より資源について学ぶ
8	1	すいか割り	
	28	おみこしパレード	
	29	夏祭り	
9	1	クッキング（５歳）	ゼリー作り午後おやつでパフェにして食べる
	4	個人面談（５歳）	
	5	水遊び終了	
	17	日限山小学校交流	一緒に室内ゲームを楽しむ
	29	個人面談（４歳）	
10	15	園児健診	
	17	運動会リハーサル①	
	24	ハロウィン	
	29	運動会リハーサル②	
11	1	運動会	
	3	さつま芋堀り（４．５歳）	栽培したさつま芋を掘り収穫する
	5	年長交流	
	5	個人面談（３歳）	
	6	園児歯科検診	
	7	５歳クッキング	収穫したさつま芋でクッキングをする
	10	かもめ保育園との交流保育	「運動会ごっこ」
	12	学研「書き方教室」	５歳児対象鉛筆の持ち方、書き方を学ぶ
	13	ヤマト運輸交通安全教室	
	20	個人面談（２歳）	
	25	４歳クッキング	さつま芋餅作りを体験する
12	8	個人面談（１歳）	
	10	生活発表会リハーサル①	
	18	日限山小学校交流	秋祭りに参加
	19	生活発表会リハーサル②	
	23	クリスマス会	
	27	生活発表会	
1	7	木育の話（幼児対象）	スライドにて地球と森の仕組みを知る
	7	木育　５歳	木の玩具に触れ遊んでみる
	9	お正月遊び	
	15	合同防災訓練	
	16	５歳懇談会	
	20	永野小学校交流（5 歳）	１年生との交流

	22	1歳保育参加	
	23	2歳保育参加	
	29	0歳児懇談会、保育参加	
2	2	５歳児園長との食事会①	園長とお楽しみを交えて食事会に参加
	2	節分	
	4	4歳懇談会	
	5	3歳懇談会	
	6	2歳懇談会	
	6	クッキング（5歳）	ピザクッキング
	9	５歳児園長との食事会②	園長とお楽しみを交えて食事会に参加
	12	年長交流	
	13	1歳懇談会	
	13	園長との食事会③	園長とお楽しみを交えて食事会に参加
	20	４歳児	ジャガイモの種芋植え
	20	日限山小学校交流	昔遊びの会に参加
	24	バス散歩（1歳）	1歳「上永谷消防署・籠森公園」
	24	バス散歩（2歳）	2歳「丸山台公園」
	25	4歳バス遠足	アースプラザにて様々な遊具を楽しむ
	27	3歳バス遠足	どんぐりハウスにて様々な遊具を楽しむ
	28	入園説明会	
3	2	卒園式リハーサル①	
	3	ひな祭り	
	6	5歳お別れ遠足	新江ノ島水族館
	11	卒園式リハーサル②	
	12	お別れ会	
	14	卒園式	

(2) 令和８年度に向けた検討事項

令和８年度には運動会の内容を変更し、親子で楽しむ会として初めての実施となる。実施後の振り返りを行い、次年度へつなげる。また、発表会や卒園式の内容も見直していく。

9. 研修報告

(1) 研修報告一覧

月	日	研修名（受講した研修はすべて記入）		研修内容（事業計画にない研修のみ記入）
		処遇改善Ⅱ対象の研修	左記以外の研修名	
4	4		職員の心得	職員の心得の用紙参照。おおらかな人柄、保護者や周囲の人がイメージする保育者とは
	4		ジョブマトリックスの確認	自分の課題を見つけて今後の保育に活かす
	17		怪我の伝え方	保護者が不安にならないような怪我の伝え方、状況説明
	19		木育と保育	事前勉強会
5	8		自園の良さを考える	この園の良い所などに気付き気付きの

				輪を広げる。
	16		コミュニケーション研修会	導入編
	23		人事評価研修会	
	27		ティーチングとコーチングを知る	
	30		コミュニケーション研修会	発展編
6	4		心肺蘇生研修	消防隊員より講習
	5		安全な水遊び、プール遊び	水遊び、プール遊びの注意事項の確認
	7		木育ひろば	阿久和保育園のイベントに参加
	20		感染症予防研修会	
	21		木育ひろば	西柴保育園のイベントに参加
7	3		メンタルヘルス研修会	
	5		「これから求められる子どもの育ちと保育者の専門性」	こどもも大人も幸せに生きるために
	11		公開保育	大久保保育園２歳児クラス
	19		「これから求められる子どもの育ちと保育者の専門性」	こどもも大人も幸せに生きるために
	22		よこはま☆保育・教育宣言研修	乳幼児のこころもちを大切に
	22		保育所における自己評価ガイドライン研修	
8	5		障害児保育研修	
	6		港南区保育実地研修（調理）理）	丸山台保育園
	22		人事評価研修会	
	26		ティーチングとコーチングを知る	
9	2	保護者支援・子育て支援		
	4		園内研修「現在はまっていること・推しは何ですか？」	各グループに別れて発表を行う。必要に応じてグッズ等も持参してもらう。発表後に各グループを見学する。
	5		子どもの特性に対応した食支援	食べることにこだわりのある子どもへの偏食対応と食育のヒント
	5		わらべうたあそび研修	
	10		港南区保育実地研修（調理）	小学館アカデミー上永谷保育園
	11		現場の課題の発見と解決	
	18		乳児保育研修	
	30	乳児保育		
	30	障害児保育		
10	1		人権研修	子どもの権利を守るためにできること
	1		インクルーシブな保育	
	7		港南区保育実地研修（調理）	関東学院子ども園　調理見学
	23		療育セミナー	みんなで考えよう！配慮が必要な子の工夫
	30		虐待による不適切保育	福岡の保育所での虐待・不適切保育
11	4		初任保育所長など研修	
	6		療育セミナー	
	7		コミュニケーション研修	応用編
	7	乳児保育		
	10		療育セミナー	手厚い支援が必要な子の、保育の手がかり
	14		人事評価研修	

	14		ティーチングとコーチングを知る	Zoom 面談
	14	障がい児保育		
	14		選ばれる保育園へのプロセス「保育研究からの発信」	
	17		よこはま港南地域療育センター	
			オープンデイ	
	20		公開保育〈後期〉	野庭第二保育園２歳児クラス
	25	保護者支援・子育て支援		
12	5		乳幼児健診見学体験研修	
	9		現場の課題の発見と解決	
	11		公開保育	大久保育園 5 歳児クラス
	15		食物アレルギー対応マニュアル研修	
	18		初任主任保育士等研修	他 11 月 26 日、27 日
1	8		園内研修「子どものつぶやきとストーリー展開」	保育の写真から予測される子どもの声を考える
	30	マネジメント		
2	2		給食における災害時の栄養・食支援	
	5	保育衛生・安全対策		
	9	食育・アレルギー対応		
	10	幼児教育		
	17		よこはま港南地域療育センターオープンデイ	
	18	保護者支援・子育て支援		
	18		アチーブメント研修	自己啓発研修
	20	乳児保育		

(2) 令和８年度に向けた検討事項

園内研修の充実化、通年の研修に加え、木育に関する知識を習得、第三者評価を控えた勉強会を実施していく。

以上

令和８年６月２日

令和７年度
阿久和キッズ 事業報告書

1. 事業内容
・小規模保育事業　・延長保育事業

2. 保育園をめぐる状況
・瀬谷区においても乳幼児の減少が見られるが、職員それぞれが一人ひとりの関わりを大切に丁寧な保育を心掛けていることにより、年間を通して 19 名の定員を満たすことができた。
また、職員の充実と協力体制のおかげで、ノンコンタクトタイム、クラス会議、研修など時間を確保することができ、より一層の保育の質向上に努めてきた。
今年度は子どもたちの発達に応じて、自ら進んで遊んだり、学んだりできる環境設定をテーマとし、係を中心に保育室の環境を見直そうと検討、実行し、限られたスペースで子ども達の動線や遊び込めるコーナーなど試行錯誤しながら進めることができた。

3. 重点施策
(1)保育の質の向上と職員間の連携
ノンコンタクトタイム、クラス会議、キャリアアップ研修などに主な時間をとり、保育について語り合い振り返りを行う時間を持つことができた。キャリアアップ研修を優先的に行ったため、e ラーニングが後回しになってしまったので、次年度の課題とする。
職員一人ひとりが丁寧な保育を心掛けながら、事務作業の効率化もそれぞれ係が検討、実行していた。

(2)保育環境の整備
安全で柔らかな安心できる場所を作ることが大前提にあった。
そして、子ども達が自分の意志で遊びや玩具を選び、自分で片付けることができるような環境を目指し、係を中心に話し合いを繰り返した。外からの入室や食事の場面での動線について改善することが必要となり、次年度も引き続き行っていくこととなっている。

(3)木育について学ぶ
子ども達が自然の木の温かさや温もり、優しさに触れ穏やかに保育に取り入れることができるよう、職員は OISCA さんの研修を受け、阿久和保育園と一緒に「木育ひろば」を開催することができた。参加された保護者の方は、大変喜び好評だった。

４．地域共生社会に向けた取り組み

地域で必要とされる園を目指す。

地域交流や子育て支援といった部分でまだ計画の段階で、実行することは難しかったので、次年度の取り組みとしていきたい。また、姉妹園や連携園との交流も引き続き行っていきたい。

５．施設整備及び備品等購入

実施項目	件名	金額（単位：千円）	備考（実施時期）
備品購入	保育用品棚	275 千円	4 月
備品購入	玩具(ままごとキッチンセット)	14.8 千円	4 月
未実施項目	件名	金額（単位：千円）	未実施の理由（背景）
備品購入	調理用品	0	破損なし （予備費として計上）

６．部門別保育年度達成状況（経過記録）

乳児保育部門

・0 歳児は 5 名でスタートをする。比較的月齢の高い児が多く、保育士の応答的な関わりを通して信頼関係を築きながらつかまり立ち、歩く、給食も中期から後期食、完了食と段階を経てゆったりと進めることができた。

・1 歳児は 4 名の進級児に 2 名の新入園児を加え 6 名でスタートする。新入園児は、2 月生まれの園児がいたので月齢の差が大きかったので、発達の段階に合わせた保育を進めた。

友だちや保育士など人に関心を持ち、自己主張も受け止めてもらいながら成長を見守るようにした。

・2 歳児は進級児 8 名。自分の思いや要求を言葉や態度で表せるようになり、要求をみたしてもらいながら過ごしていた。

個性豊かに自分の思いを保育士に伝えてくれるので、一人ひとりの思いに寄り添いながら、時にはフリー保育士が個別で関わりながら保育を進めた。

給食部門

・離乳食は一人ひとりの段階にあった食事を提供できるように保護者と連絡を取りながら進めた。

・今年度アレルギー児はいなかった。

・2 歳児の食育活動は、担任と相談しながら野菜を洗う、小さくちぎるなど実際に触れ、においや感触を確かめながら食材に触れることで食に興味を持てるように進めた。

・今年度初めて保育参加での給食の提供を行って、普段子どもが食べているものを一緒に味わっていただいた。

７．定員数・全園児数の平均・職員数

⑴定員数

クラス	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
定員（人）	5	6	8	0	0	0	19

⑵全園児数の推移（実績の推移）

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均数
全園児数(人)	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19

⑶職員数(令和 8 年 3 月 31 日時点)　　(単位：人)

職種	園長	保育士	保育補助	栄養士	調理士	事務員	看護師	合計
正職員	1	6	0	0	0	0	0	7
嘱託職員	0	1	0	1	0	0	0	2
非常勤職員	0	1	0	0	1	0	0	2
障がい者人財	0	0	0	0	0	0	0	0
シルバー人財	0	0	0	0	0	0	0	0
							合計	11

８．実施行事

⑴ 実施行事一覧

月	日	名称 （実施した行事はすべて記入）	内容 （事業計画にない行事のみ記入）
4	1	入園・進級を祝う	
	17	4 月誕生会	
	18	避難訓練	
	22,23,24	クラス懇談会	
5	2	こどもの日の会	
	22	5 月誕生会	
	27	避難訓練	
6	6	歯科健診	
	7	木育ひろば	
	11	内科検診	
	25	じゃがいも掘り	
	26	6 月誕生会	
7	7	七夕の会	
	15	7 月誕生会	
	17	避難訓練	
	30	すいかわり	
8		水遊び	
	21	8 月誕生会	
	28	夏まつり	
	29	避難訓練	
9	11	引き取り訓練・避難訓練	
	18	誕生会	

10	22	10 月誕生会	
	23	避難訓練	
	31	ハロウィーン	
11	11	避難訓練	
	17	歯科検診 1	
	19	内科検診	
	21	さつまいもほり	
	27	11 月誕生会	
	29	親子であそぼう会	
12	3	オペラコンサート	
	12	避難訓練	
	24	クリスマス会	
1	8	こども新年会	
	16	避難訓練	
	28	不審者対応訓練	
	29	1 月誕生会	
2	3	節分の会	
	4,5,10	懇談会	
	26	2 月誕生会	
	28	入園説明会	
3	3	ひなまつりの会	
	9	3 月誕生会	
	10	お別れ遠足	
	13	卒園式	

(2) 令和 8 年度に向けた検討事項

保育室の環境について検討する。

昨年度より、子ども達が主体的に自分で好きな玩具を選んだり、自分のタイミングで遊び込んだり、自分で片付けることができる環境設定を目指して、係を中心に検討し試行錯誤してきたが、外遊びからの入室や給食の動線がクラスごとに重なってしまったり、手洗いが十分できないなどがあったので、令和８年度も引き続き検討していく。

9. 研修報告

(1) 研修報告一覧

月	日	研修名 (受講した研修はすべて記入)		研修内容 (事業計画にない研修のみ記入)
		処遇改善Ⅱ対象の研修	左記以外の研修名	
4	17		園内研修	
	19		木育事前勉強会	
5			コミュニケーション	
	22		園内研修	
	27		ティーチング・コーチング	
	24		瀬谷区園長会研修	
	26		救急・防災研修	
6			人事評価研修	

	18		園内研修	
		保護者支援・子育て支援		
7	3		メンタルヘルス研修	
	5		保育者の専門性	井桁講師
	11		食物アレルギー研修	
	17,18		姉妹園研修	西柴保育園にて
		保健衛生・安全対策		
8		発達障害のこどもの支援		こどもの心のケアー
	26		ティーチング・コーチング	
	2	障害児保育		
9	4,5		姉妹園研修	西柴保育園にて
	12		食品衛生責任者実務講習	
	14,15,16		福祉施設長専門講座	社会福祉施設長に必要な実践力を学ぶ
	26		問題発見と解決	
	29	発達障害児コーディネーター講座		
10	16	発達障害児コーディネーター講座		
	9		公開保育	
	29		インクルーシブ保育	
		マネージメント研修		
11	25	発達障害児コーディネーター講座		
12	9		問題発見と解決	
1	31		福祉施設長専門講座	社会福祉施設長に必要な実践力を学ぶ
2	1		福祉施設長専門講座	社会福祉施設長に必要な実践力を学ぶ

(2) 令和８年度に向けた検討事項

・職員のステップアップのために、事務時間を確保してキャリアアップ研修（乳児保育、幼児保育、障がい児保育、食育・アレルギー対応、保健衛生・安全対策、保護者支援・子育てしえん、保育実践、マネジメント）の８つの分野を受講し、一人ひとりが保育の質を高め毎日の保育に活かしていく。e ラーニングについては、個人で勉強することはもちろん、園内研修として同じ動画を見て意見交換、保育について語り合う時間を設けていく。

以上